



学び、究め、貢献する  岐阜大学
GIFU UNIVERSITY

大学の動向報告～発展し続ける岐阜大学～

2025年11月1日 岐阜大学長 吉田和弘



第4回岐阜大学フォト＆アートコンテスト 受賞作品
https://www.gifu-u.ac.jp/about/publication/photo_art_contest.html



2025.11.1 第3回 岐阜大学ホームカミングデイ

1. 東海国立大学機構のミッション・ビジョンと共に発展モデル

2. 岐阜大学の組織/ミッション・ビジョン・戦略/「ぎふのミ・ラ・イ・エ」構想

3. 活動実績等

4. 法人統合による効果

5. Visionの実現に向けた取組

教育・人材育成 ~真に学生本位で、国際通用性のある質の高い教育により、社会で活躍する人材を養成する~

国際展開 ~グローカルリーダーの育成と留学生ネットワークの構築により地域に根差した国際化を実現~

研究・価値創造 ~世界最高水準の研究拠点を形成し、地域社会から人類が直面している諸課題を解決する~

社会連携・产学連携 ~産業競争力向上や大学発ベンチャーの創出、产学協働拠点の形成を通じてT-PRACTISS構想を実現する~

6. ご支援のお願い



東海国立大学機構のミッション・ビジョンと共発展モデル

各大学が役割を持ってミッション・ビジョン
を達成する共発展モデルの実現を目指す

ミッション

「Make New Standards for The Public」

東海国立大学機構が知とイノベーションのコモンズとして、常に国立大学の新たな形を追求し、地域と人類社会の進歩に貢献し続けることを、存在意義とする。

ビジョン(6~10年後のありたい姿)

「知とイノベーションのコモンズとして、

地域と人類社会の課題解決に貢献する新たな国立大学を確立」

名古屋大学は世界と伍する研究大学を、岐阜大学は日本トップクラスの地域の中核大学を目指す。東海国立大学機構は、それらの取り組みを全面支援するとともに両大学連携による連携拠点支援事業や基盤整備事業、社会連携事業を整備、拡充する。6~10年以内に知とイノベーションのコモンズを実現し、社会の公共財としての新たな国立大学モデルを確立する。

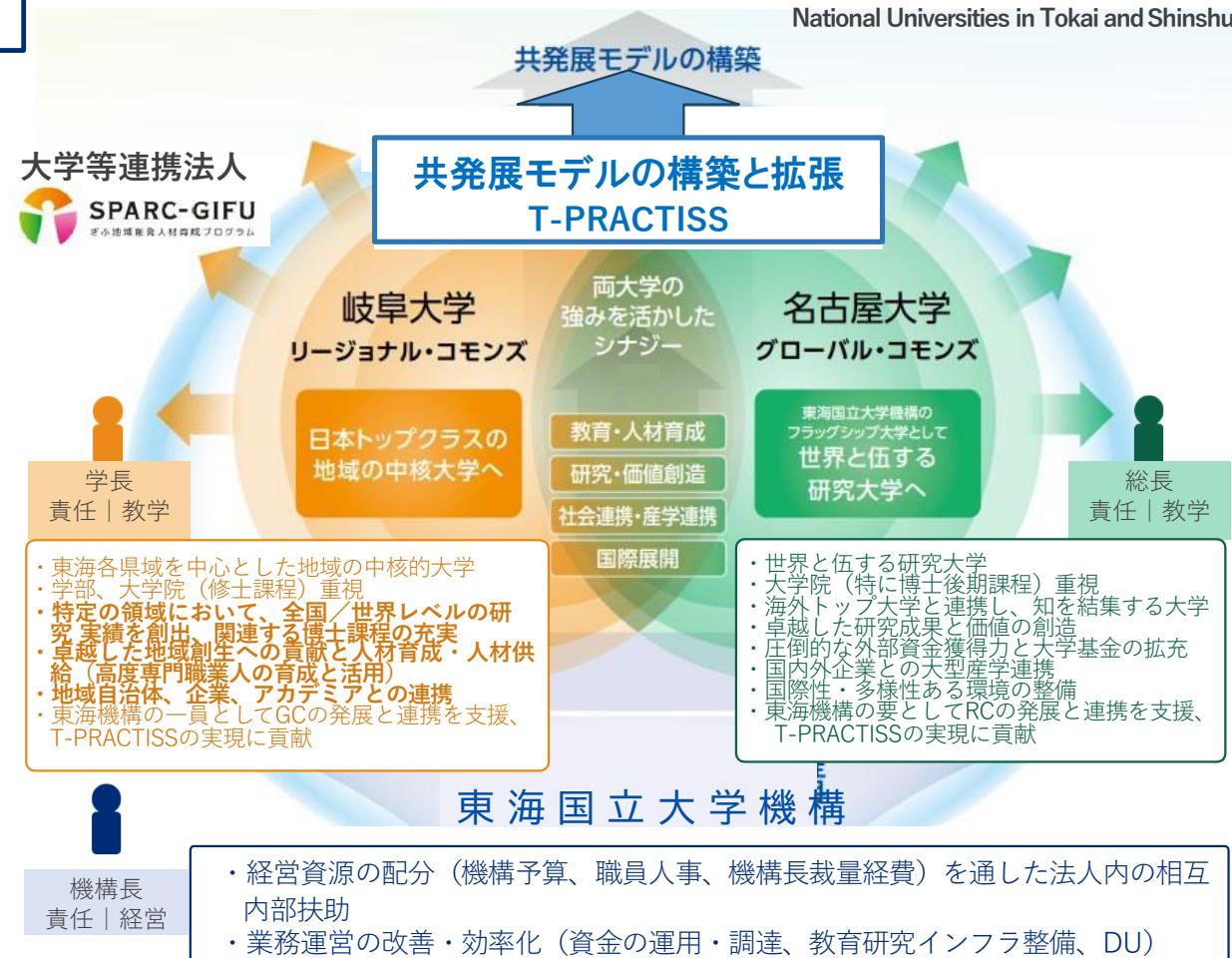
ミッション・ビジョン実現のための戦略

“4x4”ストラテジー

東海機構における大学間連携

C²-FRONTS*

*東海・信州国立大学連携プラットフォーム
Collaboration and Co-creation Framework of
National Universities in Tokai and Shinshu



1. 東海国立大学機構のミッション・ビジョンと共に発展モデル

2. 岐阜大学の組織/ミッション・ビジョン・戦略/「ぎふのミ・ラ・イ・エ」構想

3. 活動実績等

4. 法人統合による効果

5. Visionの実現に向けた取組

教育・人材育成 ~真に学生本位で、国際通用性のある質の高い教育により、社会で活躍する人材を養成する~

国際展開 ~グローカルリーダーの育成と留学生ネットワークの構築により地域に根差した国際化を実現~

研究・価値創造 ~世界最高水準の研究拠点を形成し、地域社会から人類が直面している諸課題を解決する~

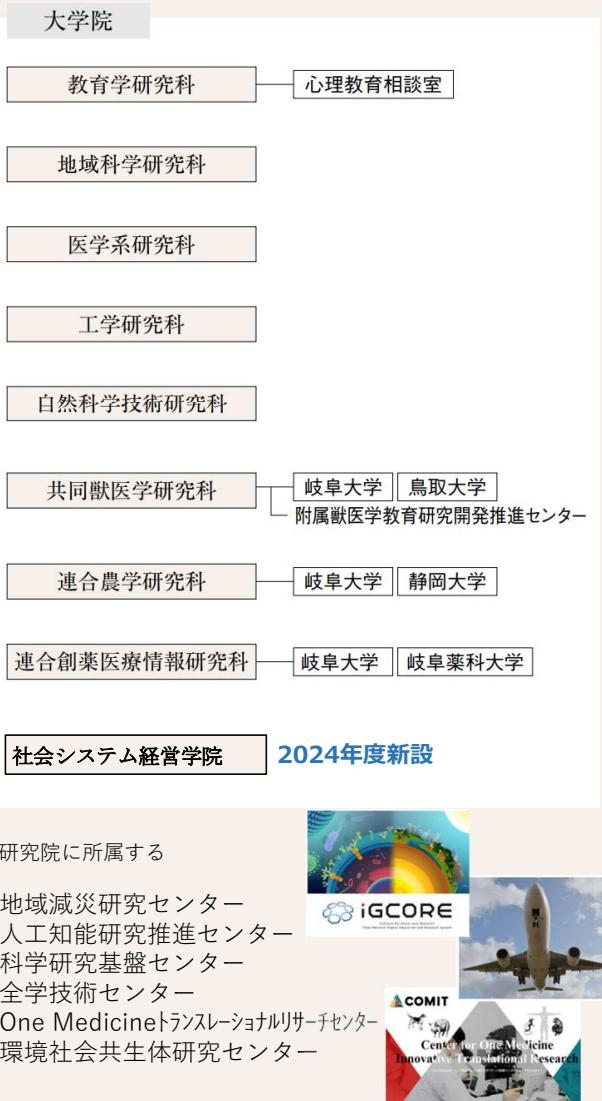
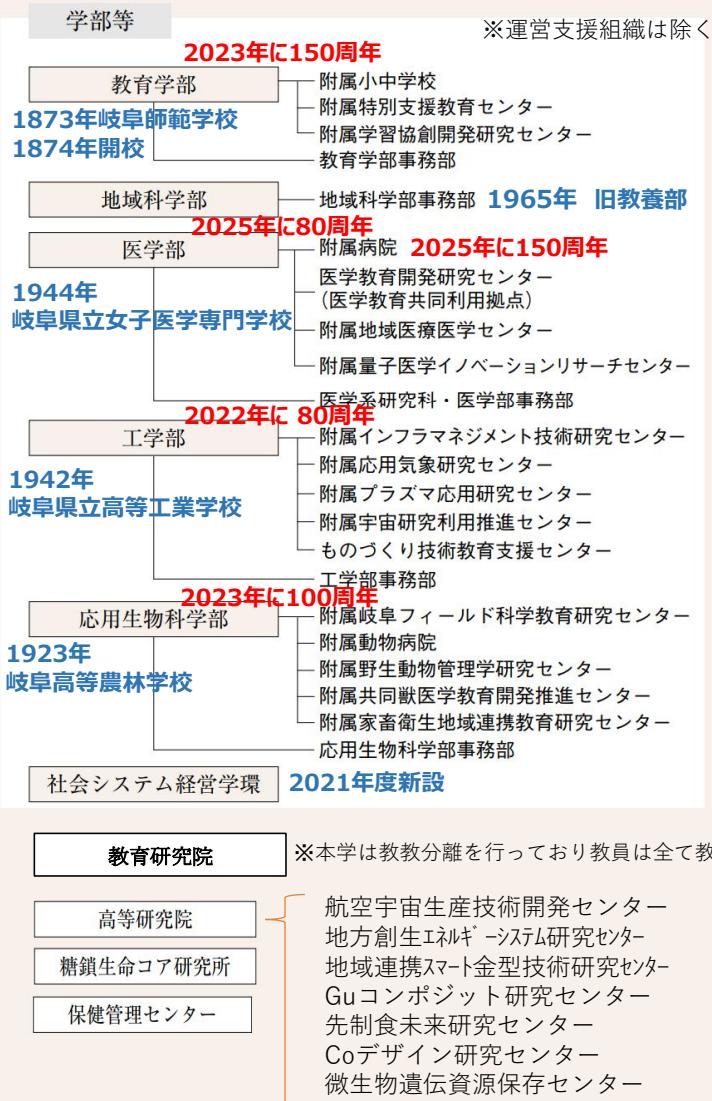
社会連携・产学連携 ~産業競争力向上や大学発ベンチャーの創出、産学協働拠点の形成を通じてT-PRACTISS構想を実現する~

6. ご支援のお願い



2. 岐阜大学の組織/ミッション・ビジョン・戦略/「ぎふのミ・ラ・イ・エ」構想

岐阜大学の教育研究組織及び執行部



学長



吉田和弘
(2022年4月 就任)



神原 信志
 副学長（企画・評価・情報基盤・DU・法務・公正研究・リスク管理担当）



大藪 千穂
 副学長（多様性・ジェンダー（男女共同参画）・人権・広報・ブランディング・基金・図書館担当）



秋山 治彦
 医学部附属病院長

副学長等



王 志剛
 筆頭副学長
 (総括・研究・IR・産学官連携・地域創生・スタートアップ・財務担当)



杉山 誠
 副学長（地域連携（SPARC等）・総務・人事・ハラスマント・施設担当）



益子 典文
 副学長（教育・学生支援・地域連携（SPARC等）（副）担当）



リム リーワ
 副学長（国際展開・多様性・ジェンダー（男女共同参画）・図書館（副）担当）



学び、究め、貢献する

岐阜大学
 GIFU UNIVERSITY

岐阜大学のミッション・ビジョンと戦略

－日本トップクラスの地域の中核大学を目指します－

ミッション

洗練された「人が育つ場」の中で、社会を牽引し、未来を創造しうる「学び、究め、貢献する」人材を輩出する。

ビジョン

地域共創、特色ある研究、イノベーション、教育を戦略的に推進し、地域と人類の課題解決に貢献する「地域活性化の中核拠点」となる。

学長のリーダーシップによる自律的なマネジメント改革

ガバナンス	一法人複数大学制の下、機構(法人)と構成大学間の連携強化、経営・教学の分離および監督・執行の分離体制の整備
資源配分	ポイント制による教員人件費管理、トータルリバジェットでの資源配分、成果に基づく指標の活用など
地域貢献	地域ステークホルダーとの対話のもと、オープンイノベーション推進施設・設備や仕組みを整備など
財源の多様化	各種外部資金の獲得、クラウドファンディング、保有資産活用、研究成果活用促進への出資など
DEIB*宣言に基づく人事	多様性、公正性、包摶性を軸とした構成員の帰属性向上、優秀で多様な人材の確保など

* Diversity, Equity, Inclusion & Belonging

4つの戦略

【戦略】1 教育・人材育成

真に学生本位で、国際通用性のある質の高い教育により、社会で活躍する人材を養成する。



【戦略】2 研究・価値創造

特定の研究分野において、世界最高水準の成果を獲得できる研究拠点を形成し、地域社会から人類が直面している諸課題を解決する。



【戦略】3 社会連携・产学連携

地域課題の解決による地域のブランド力の増進や産業競争力向上、大学発ベンチャーの創出や産学協働拠点の形成を通じて、T-PRACTISS*構想を実現する。



【戦略】4 国際展開

ジョイント・ディグリー・プログラム (JDP) を基軸としたグローカルリーダーの育成と留学生ネットワークの構築により、地域に根差した国際化を実現する。



「ぎふのミ・ラ・イ・工」構想 – 岐阜大学の目指すべき姿 –

The future image of Gifu University - Migration/ Laboratory/ Innovation/ Education -

東海国立大学機構連携支援拠点、新たなエネルギー開発、教育を軸とする豊富な人材育成を目指した次世代の大学像

Migration



人材移入・人口定着を
目指した地域共創

産業・まちづくり

社会・産業の課題解決を通じた
国際社会と地域共創への貢献

(取り組み)
エネルギー(地熱、バイオマス等)・
新産業創出・雇用創出・スマートシ
ティー・環境課題(カーボンニュートラル、
水素・アンモニアの活用等)・イノベ
ーションコモンズ

Laboratory



地域の特性を生かした研究
施設と世界最高の知の拠点

ものづくり・食づくり

世界最高水準の研究の
展開による知の拠点化

(取り組み)
生命科学・航空宇宙・先端材料・生産技
術・刃物・金型・気候環境・流域・森林・
バイオ・水産・スマート農業

Innovation



創薬シーズの開発・育成拠点
標準治療の創生

医療づくり

地域一体型のライフサイエンス
研究体制の確立

(取り組み)
新規医療技術・創薬シーズ探索、開発、
育成・治験・データ解析・トランスレー
ションナルリサーチセンター(TR)・未病・
予防医療、健康長寿データ

Education



Society 5.0に求められる
教育・人材育成

人づくり

国際通用性のある質の
高い教育の実践

(取り組み)
IoT, DX, XRを採用した教育シス
テム・デジタル人材・異分野融合人材・博
士課程支援・ダイバーシティ・人生
100年時代 リカレント教育

ミライ工構想を

実現するため
の事業予算
獲得実績

- 大学経営改革補助金【2022～2025 1,247百万円】
- 地域の中核大学イノベーション創出環境強化事業【2022～2023 200百万円】
- 地域の中核大学の産学融合拠点の整備【2021～2022 500百万円】
- 地域活性化人材育成事業 (SPARC)【2022～2027 445百万円】

・大学の世界展開力強化事業 (JDP インド) 【2022～2026 116百万円】

- ・地方大学・地域産業創生交付金「展開枠」(航空宇宙)【2023～2026 628百万円】
- ・次世代研究者挑戦的研究プログラム (新SPRING) 【2024～2026 661百万円】
- ・大学・高専機能強化支援事業【2024～2033 735百万円】

1. 東海国立大学機構のミッション・ビジョンと共に発展モデル

2. 岐阜大学の組織/ミッション・ビジョン・戦略/「ぎふのミ・ラ・イ・エ」構想

3. 活動実績等

4. 法人統合による効果

5. Visionの実現に向けた取組

教育・人材育成 ~真に学生本位で、国際通用性のある質の高い教育により、社会で活躍する人材を養成する~

国際展開 ~グローカルリーダーの育成と留学生ネットワークの構築により地域に根差した国際化を実現~

研究・価値創造 ~世界最高水準の研究拠点を形成し、地域社会から人類が直面している諸課題を解決する~

社会連携・产学連携 ~産業競争力向上や大学発ベンチャーの創出、産学協働拠点の形成を通じてT-PRACTISS構想を実現する~

6. ご支援のお願い



3.活動実績等

2024年度 岐阜大学の実績

1.教育・人材育成

- ▽次世代研究者挑戦的研究プログラム（新SPRING）大幅増枠
- ▽大学・高専機能強化支援事業に採択（6月）
- ▽名大附属高校SSH科学技術人材育成重点枠事業へ参加(4月～)
- ▽「Tongaliビジネスプランコンテスト2024」学生2チーム入賞
- ▽パリオリンピックで赤松諒一さん（教育学研究科修了/医学系研究科研究生）が見事5位入賞
- ▽高度医療人材養成拠点形成事業に採択（10月）
- ▽「ぎふハイスクールサット（GHS）」のライトモデルのJAXAへの引き渡しが完了（12月）



2.研究価値創造

- ▽環境社会共生体研究センター設置(4月)
- ▽量子フロンティア産業創出拠点始動(4月)
- ▽オープンアクセス加速化事業に採択（9月）
- ▽応用生物科学部共同獣医学科の宮脇慎吾准教授が科学技術分野の文部科学大臣表彰「若手科学者賞」を受賞
- ▽NEDOエネルギー・環境新技術先導研究プログラムに採択
- ▽日本記念日協会から10月3日を「糖鎖（とうさ）の日」に認定



5.大学運営

- ▽ネーミングライツ契約@学全学共通教育棟1階「IBIDEN Innovation Hub」（4月）
- ▽デジタルサイネージの運用開始（4月）



3.社会連携・产学連携

- ▽大藪千穂副学長が消費者支援功労者表彰「内閣府特命担当大臣表彰」を受賞(5月)
- ▽恵那市、東白川町、七宗町、富加町、可児市との包括連携協定を締結し岐阜県及び県内42全市町村締結完了
- ▽ハサウエイソス株式会社と産学連携に関する包括協定を締結(10月)
- ▽日本全薬工業株式会社と包括的な産学連携協定を締結（1月）
- ▽中経産および大垣共立銀行と「地域のオープンイノベーションの促進に関する連携協定」を締結
- ▽航空機製造業5社と持続可能な航空機生産コンソーシアム（CSAP）設立



4.国際展開

- ▽駐日ジョージア特命全権大使が本学を訪問（6月）
- ▽ラバト国際大学（モロッコ）協定締結（7月）
- ▽サマルカンド国立医科大学(ウズベキスタン)との友好関係強化(7月)
- ▽シーナカリンウィロート大学学長等が本学を訪問（7月）
- ▽アンダラス大学学長等が本学を訪問（10月）
- ▽駐日リトアニア大使特別講演会を開催（11月）
- ▽モンゴル生命科学大学学長らが本学を訪問（11月）



- ▽大学支援フォーラムPEAKS実証事業採択（10月）

- ▽第2回岐阜大学ホームカミングデイ2024開催（11月）
- ▽東海機構運営方針会議設置（11月～）

3.活動実績等

2025年度 岐阜大学の実績（10月末時点）

※赤：補助金等採択事業 青：組織設置等 緑：名古屋大学との連携

1.教育・人材育成

▽地域教員希望枠を活用した教員養成大学・学部の機能強化事業に採択

- ▽「Tongalビジネスプランコンテスト2025」で学生2チームが入賞
- ▽県内高校生らが制作した超小型人工衛星「らいちょう」が宇宙へ飛び立ち国際宇宙ステーションから衛星軌道へ放出（9月）
- ▽赤松諒一選手が東京2025世界陸上走高跳で8位入賞（9月）



2.研究価値創造

▽創発的研究支援事業 大学助成型RA支援経費

▽医学系研究支援プログラムに採択

▽工学部 橋本 慧 助教の研究課題がJSTの戦略的創造研究推進事業（さきがけ）に採択（9月）

5.大学運営

▽サステイナブルキャンパス評価システム(ASSC)で最上位のプラチナ認証取得（6月）



3.社会連携・产学連携

▽地域連携推進本部設置

▽大蔵副学長が代表を務める「消費者ネットワーク岐阜」が消費者庁の「ベスト消費者サポーター章」受賞（6月）

▽OKB地域応援私募債（拍手喝債）～地域貢献型～寄附金贈呈（6月）



▽岐阜県と「若者のライフデザイン及びキャリア形成に係る連携事業に関する覚書」を締結（6月）

▽「岐阜大学経営者の会」設立（10月）

4.国際展開

▽シーナカリンウィロート大学（タイ）と大学間学術交流協定を締結（3月）



▽文科大臣とJDPに関する意見交換、要望書手交（4月）

▽南アフリカ大学が本学を訪問し学術交流協定更新（4月）

▽カウナス工科大学（リトアニア）教員らが本学を訪問（6月）

▽学長がUKM,UM（マレーシア）、アンダラス大学（インドネシア）訪問（9月）

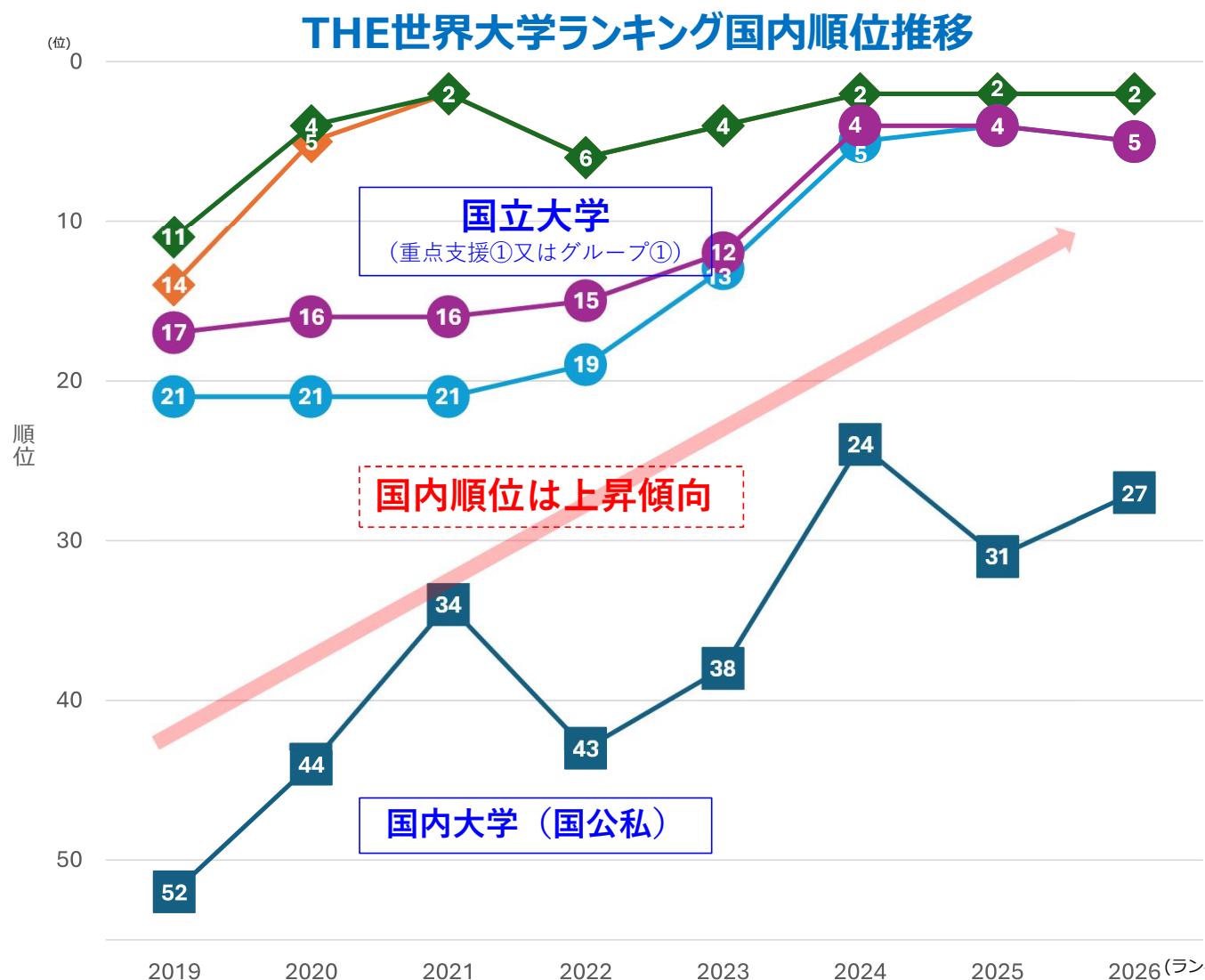
▽大学の世界展開力強化事業に採択

▽保健管理センター開設50周年記念シンポジウムを開催（9月）

▽岐阜大学が「ぎふSDGs推進ゴールドパートナー」に登録（9月）

3.活動実績等

(参考)世界大学ランキング 国内順位の推移



3.活動実績等

(参考) 国立大学法人運営費交付金「成果を中心とする実績状況に基づく配分」

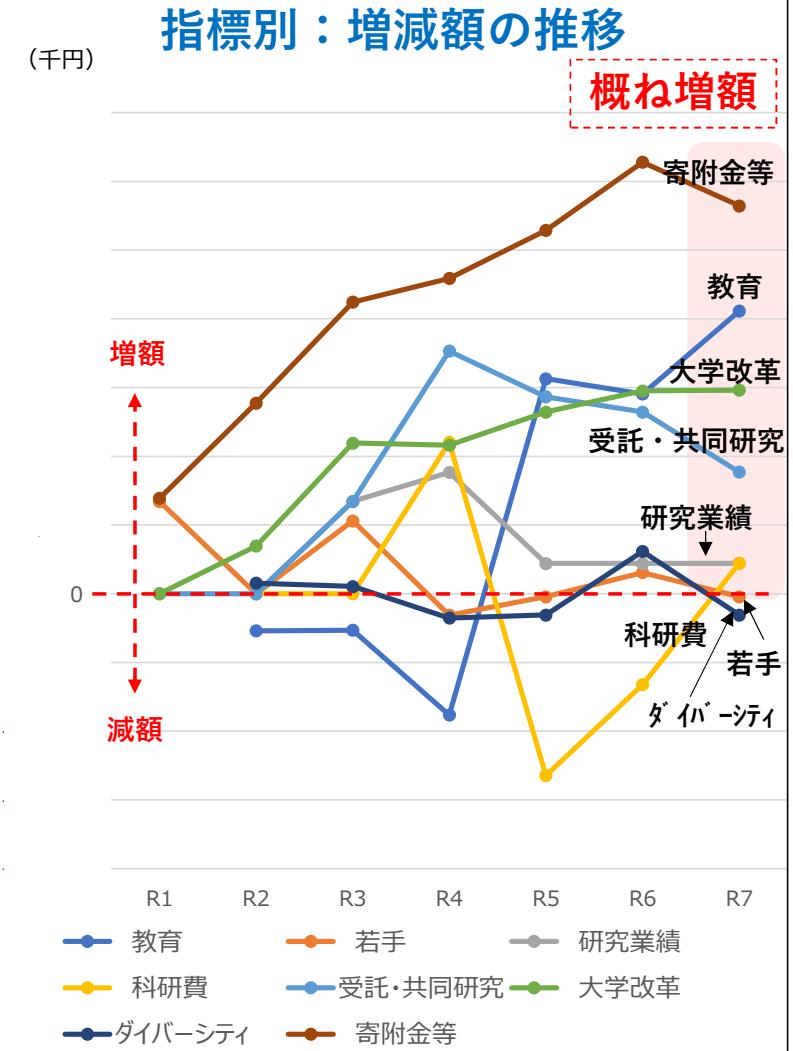
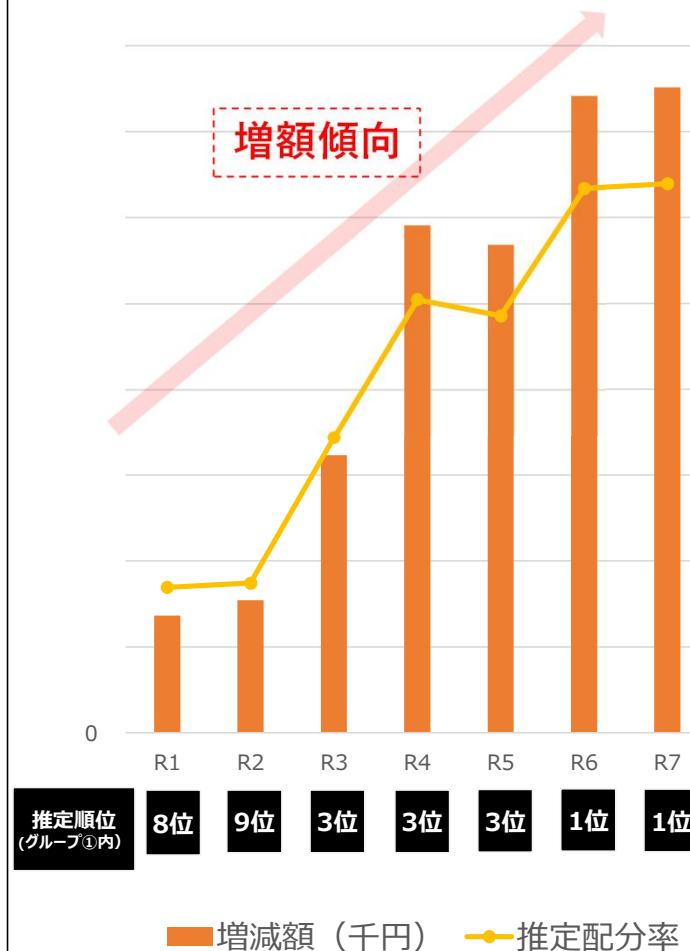
【配分の趣旨】

- ・国立大学における教育研究の更なる質の向上や経営改善に向けた一層の努力を促すため、教育研究活動の実績・成果等を下記の指標ごとに客観的に評価し、その結果に基づく配分を実施。
- ・国立大学の教育研究活動の継続性・安定性とのバランスに留意しつつ、教育研究の更なる質の向上を図る

【配分指標】

教育	卒業・修了者の就職・進学等の状況	60億円	【教育】	170億円
教育	博士号授与の状況	60億円		
教育	大学教育改革に向けた取組の実施状況	50億円		
研究 経営	若手研究者比率 〔新規採用教員に占める 若手研究者比率を加味〕	155億円	【研究】	470億円
研究	運営費交付金等コスト当たりTOP10%論文数 (グループ④~⑥)	115億円		
研究	常勤教員当たり研究業績数 〔※〕	100億円		
研究 経営	常勤教員当たり科研費獲得額・件数 〔※〕	100億円		
研究 経営	常勤教員当たり受託・共同研究等受入額 〔※〕	100億円		
人事給与マネジメント改革状況	40億円			
会計マネジメント等改革状況 (ダイバーシティ環境醸成の状況等を含む)	70億円			
寄附金等の経営資金獲得実績 〔※〕	150億円			

岐阜大学の配分結果の推移



3.活動実績等

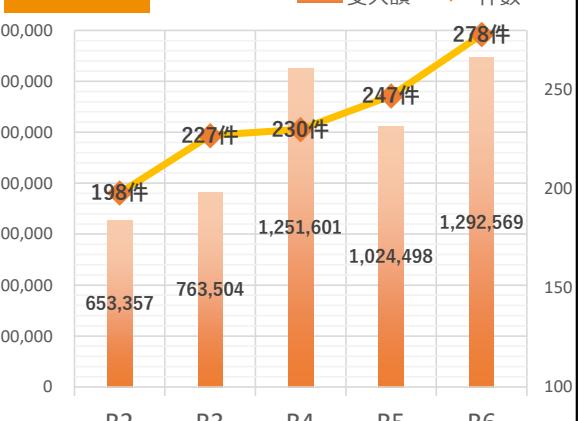
(参考) 外部資金受入実績の推移と特色

外部資金受入実績推移

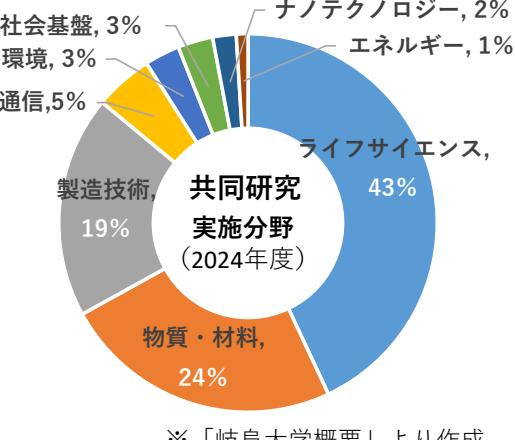
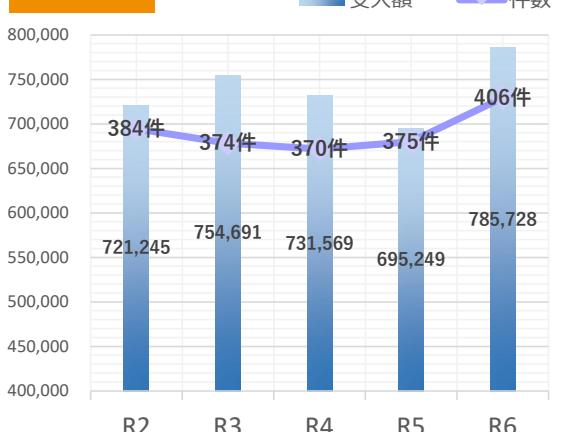
科学研究費助成事業



受託研究



共同研究



民間企業との共同研究 (※R5年度実績)

中部地区11国立大学中

件数 1位 受入額 3位

グループ①28国立大学中

件数 3位 受入額 6位

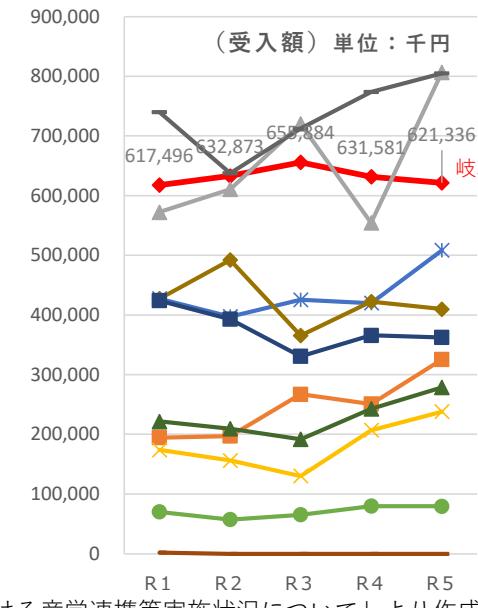
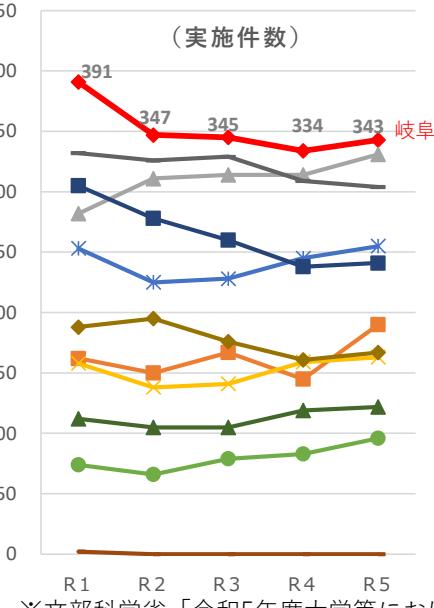
※11大学：岐阜、金沢、名工、静岡、三重、豊技、福井、富山、北陸先端、浜医、愛教（名大は除く）

全国公私立大学中

件数 20位 受入額 28位

中部地区11国立大学

民間企業との共同研究推移



※文部科学省「令和5年度大学等における産学連携等実施状況について」より作成

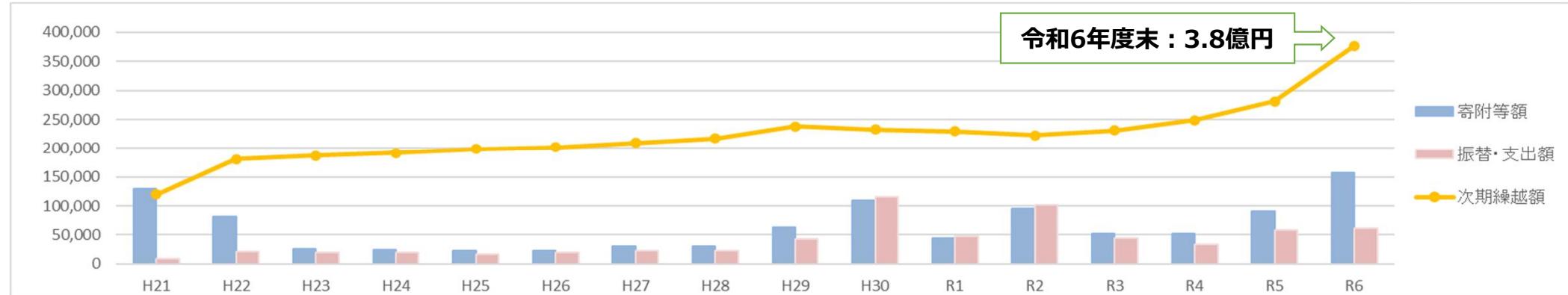
3.活動実績等

(参考)岐阜大学基金収支状況等について（平成21年度～令和6年度）

1. 寄附等額、支出額、次期繰越額

※ 岐阜大学基金は、収入額（寄附等額）の一部を直接、各種支援事業に支出しています。
そのため、収入額と支出額の差額（次期繰越額）が基金として造成されています。

(単位：千円)

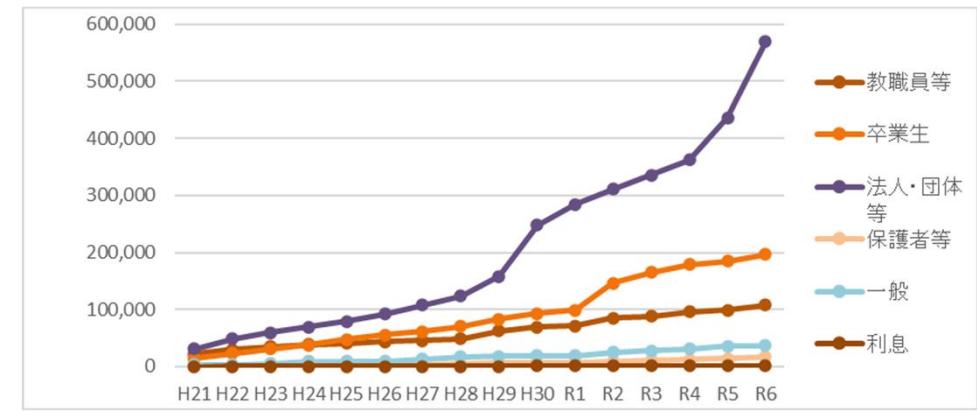
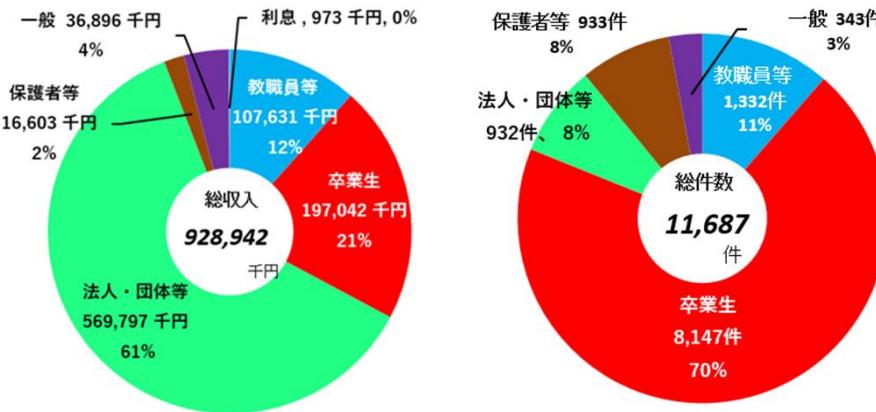


令和6年度末：3.8億円

2. 寄附者等別内訳（平成21年度～令和6年度までの累計）

※ 前事業からの振替・寄附分104,748千円を除く

(単位：千円)



3.活動実績等

(参考) 創発的研究支援事業による若手研究者支援

【創発的研究支援事業による若手研究者支援】

2020年度採択実績	1人
2021年度採択実績	2人
2022年度採択実績	2人
2023年度採択実績	2人
<u>2024年度採択実績</u>	<u>2人</u>
5期合計	9人

名古屋大学 5期合計 94人

東海機構としては20'~24'五期合計103人となり東大・京大に次ぐ第3位

岐阜大学では創発的研究支援事業のほか、JST「次世代研究者挑戦的研究プログラム」による博士人材育成を目的とした**東海国立大学機構メイク・ニュー・スタンダード次世代研究事業**や若手研究者支援制度である**G-YLC(Young Leaders Cultivation)**の創設により、若手研究者を支援し、次世代最先端研究を担う研究者を育成している。

所属	採択
東京大学	163
京都大学	106
東北大	97
名古屋大学	94
大阪大学	84
九州大学	44
筑波大学	39
東京工業大学	35
理化研究所	34
北海道大学	33
金沢大学	24
熊本大学	23
産業技術総合研究所	20
慶應義塾大学	19
神戸大学	18
順天堂大学	18
広島大学	18
千葉大学	16
東京農工大学	15
東京医科歯科大学	13
岡山大学	11
物質・材料研究機構	10
早稲田大学	10
徳島大学	9
電気通信大学	9
大阪公立大学	9
新潟大学	9
岐阜大学	9
東京科学大学	8
沖縄科学技術大学院大学	8
国立がん研究センター	7
分子科学研究所 (自然科学研究機構)	6
量子科学技術研究開発機構	5
奈良先端科学技術大学院大学	5
東京都立大学	5
東京慈恵会医科大学	5
長崎大学	5
山口大学	5
埼玉大学	5

国立研究開発法人科学技術振興機構

創発的研究支援事業採択者所属 (採択時所属)

所属	採択
情報通信研究機構	2
芝浦工業大学	2
三重大	2
札幌医科大学	2
国立極地研究所	2
国立環境研究所	2
高知工科大学	2
香川大学	2
九州工業大学	2
京都府立医科大学	2
基礎生物学研究所	2
関西学院大学	2
宇都宮大学	2
宇宙航空研究開発機構	2
お茶の水女子大学	2
琉球大学	1
名城大学	1
北里大学	1
北見工業大学	1
豊田工業大学	1
法政大学	1
兵庫県立大学	1
日本大学	1
日本原子力研究開発機構	1
日本医科大学	1
同志社大学	1
東邦大学	1
東京農業大学	1
東京女子医科大学	1
島根大学	1
長崎国際大学	1
帝広畜産大学	1
総合研究大学院大学	1
千葉県がんセンター(研究所)	1
静岡県立大学	1
青山学院大学	1
成蹊大学	1
森林研究・整備機構	1
昭和大学	1
小山工業高等専門学校	1

出典：JST 2025年度 創発的研究支援事業 公募概要説明資料より

教職員等

令和6年度 科学技術分野 文部科学大臣表彰

宮脇 慎吾准教授 若手科学者賞 受賞



令和6年度 内閣府特命担当大臣表彰

大藪 千穂 教授 消費者支援功労表彰 受賞



令和6年度 岐阜県 環境保全推進功労者表彰

神谷 浩二 教授 環境保全推進功労者表彰 受賞



令和6年度大垣市教育功労者表彰

益川 浩一 教授 大垣市教育功労者表彰 受賞



第19回マニフェスト大賞

田中 伸 准教授 シティズンシップ部門優秀賞 受賞



令和6年度 秋の叙勲 瑞宝中綬章（教育研究功労）

合田 昭二 名誉教授 堀内 孝次 名誉教授



学生・課外活動等

IVRC2024

工学部・自然研の学生が製作した、VR作品が総合優勝。世界的VRイベント「Laval Virtual Prize」も同時受賞し、国際舞台へ



Tongaliアイデアピッチコンテスト2024

2つの学生チームが各賞（Tongali賞3位、海外チャレンジ賞、名古屋銀行賞、名鉄賞/野村證券賞）を受賞



Tongaliビジネスプランコンテスト2024

2つの学生チームが各賞（Tongali賞 優秀賞海外チャレンジ賞/Tongali賞 5位、OKB賞）を受賞



「医療的ケア児者を応援する市区町村長ネットワーク」第1回スペシャルニーズ応援アワード

学生ボランティア団体「ゆにいんくる」が受賞



「第63回外国人による日本語弁論大会」

自然研の留学生が文部科学大臣賞を受賞



土木デザイン設計競技イベント「景観開花。」

本学学生グループが優秀賞を受賞



学生フォーミュラ日本大会2024

本学学生チームが総合5位を獲得



パリ2024オリンピック陸上男子走高跳で5位入賞
 赤松諒一選手（本学教育学研究科修了、現SEIBU PRINCE所属、本学医学系研究科研究生）が陸上男子走高跳びで、日本勢では88年ぶりとなる日本選手の最高成績に並ぶ5位入賞！



東京2025世界陸上走高跳で8位入賞 NEW
 令和7年9月に東京で開催された「東京2025世界陸上競技選手権大会」にて男子走高跳において、出場した日本人の最高成績となる8位に入賞！



1. 東海国立大学機構のミッション・ビジョンと共に発展モデル

2. 岐阜大学の組織/ミッション・ビジョン・戦略/「ぎふのミ・ラ・イ・エ」構想

3. 活動実績等

4. 法人統合による効果

5. Visionの実現に向けた取組

教育・人材育成 ~真に学生本位で、国際通用性のある質の高い教育により、社会で活躍する人材を養成する~

国際展開 ~グローカルリーダーの育成と留学生ネットワークの構築により地域に根差した国際化を実現~

研究・価値創造 ~世界最高水準の研究拠点を形成し、地域社会から人類が直面している諸課題を解決する~

社会連携・产学連携 ~産業競争力向上や大学発ベンチャーの創出、産学協働拠点の形成を通じてT-PRACTISS構想を実現する~

6. ご支援のお願い



4. 法人統合による効果 法人統合による学生にとってのメリット

連携開設科目による教育の充実

複数大学を設置する法人が一定の要件を満たす場合、教学上の特例により連携開設科目の設置を認められ、両大学の学生は、それぞれの大学の強みのある分野において提供される連携開設科目を履修することで、より充実した教育を受けることが可能。

③連携開設科目：大学設置基準第19条の2第1項



連携開設科目 ※R6までは全共科目のみ	R5年度	R6年度	R7年度予定	
			(全共科目)	(教育学部専門科目)
岐阜大学開設科目数	9科目	21科目	28科目	13科目
名古屋大学開設科目数	18科目	17科目	19科目	4科目

博士課程学生への支援

岐阜大学と名古屋大学が共同申請した、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の「次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING）」に採択され、研究環境及び経済的支援を充実。
令和6年度から支援枠が大幅増 **24枠** (R5年度) ⇒ **76枠** (R6年度以降)

数理・データサイエンス・AI教育プログラム

データサイエンスの基礎的な知識とスキルの修得を目指す授業を開講。教材の基盤部分は本教育プログラムを先行して実施している名古屋大学が作成し、両大学の学生の特性に合わせてカスタマイズされ教育効果の高いものとなっている。

文部科学省の数理・データサイエンス・AI教育プログラム「リテラシーレベル」及び「応用基礎レベル」に認定済



大学施設の相互利用

両大学に設置された施設の相互利用が可能となり、学生は双方の図書館を利活用できるようになった。一方の大学の附属図書館にはない分野の図書を借りることが可能となった。

ウェルネス教育・キャリア教育

学生の健康増進やコミュニケーション力向上、インターンシップの推進や障害学生のキャリア形成等について、オンラインを活用し、両大学共同で支援活動を行っている。大学単独では実施することが困難なメニューを多数展開でき、学生の状況に即した適切な学生支援ができるようになった。

4. 法人統合による効果

(参考) 東海国立大学機構連携拠点支援事業 (2025年4月現在: 6事業)



糖鎖生命コア研究
拠点 (iGCORE)
Institute for Glyco-core Research (iGCORE)

われているのか」、その答えを探す。本拠点では、世界トップレベルの糖鎖化学・イメージング（岐阜大学）、糖鎖生物・糖鎖医学（名古屋大学）分野の両大学の研究者が集結し、糖鎖分析、糖鎖数理モデルなどの分野をさらに強化することで、世界で無二の統合的糖鎖拠点を形成する。それにより、核酸、タンパク質研究より一次元上の生命原理の解明を世界で初めて可能にし、個別予防や未病検知といった医療革新につながる基礎研究を推進する。

- これまでの生命科学は、糖鎖の理解やそれを研究するための技術・統合拠点が不足していたため、糖鎖を大量に含む生命の本質(コア)が十分に理解できていない。「なぜ我々の持つ全ての細胞が多様な糖鎖で覆



One Medicine創薬
シーズ開発・育成
研究教育拠点

- 「ヒトと動物の疾患は共通」すなわち「One Medicine」という視座にたち、医学、獣医学、薬学、工学等の研究者が分野横断的かつ国内外で施設横断的に連携し、有望な創薬シーズを高度に選別し、臨床応用へつなげる

創薬研究における「魔の川」を克服することでヒトと動物の創薬研究を変革する。さらに、創薬標的同定から創薬シーズの開発・育成、非臨床試験、治験までの研究プロセスを一気通貫で管理・推進し、医薬品・医療機器開発企業との共同研究や知財導出を支援できるマネジメント人材を育成し、国内の大学・研究機関に配置し、ヒトと動物の創薬研究を一気に加速させ、「Sharing Medicine（人獣共通医療学）」という新たな学際領域を開拓する。



健康医療ライフデ
ザイン統合研究教
育拠点

Center for research, education, and development for healthcare life design (C-REx)

- 信頼できる健康医療データ基盤を構築し、英語の「Life」にある3つの意味、「いのち」、「生活」、「人生」のそれぞれを対象にデザインした研究教育を統合的に行うことで、社会的課題を解決して人と社会に貢献する。

・世界の人々が皆、それぞれの立場（患者、介護サービス利用者、福祉支援対象者、健常人）でWell-beingになる健康医療社会の創成を目指す。



低温プラズマ総合
科学研究拠点

- 低温プラズマは、ほぼ全ての産業を根底から支え、半導体製造の全工程の80%を担い、この40年間にわたる微細加工の技術革新を牽引する我が国のモノづくりの生命線である。最近では医療・農業分野との異分野融合を推進して、がん細胞の選択死滅や植物の成長促進などの効果が発

見され、それら効果を研究するプラズマバイオ分野が創成され、健康医療や食料農業においてライフサイエンスを興す世界最高峰の研究を進めている。将来のプラズマ技術を見据えて、両大学の強みを相乗的に活かし、国内外の研究者との多様な共同利用・共同研究を推進する拠点を形成する。



航空宇宙研究教育
拠点

- 急速に変化する技術、社会要請に対して、学際体制および産学官の強固な連携により、航空宇宙産業における国際競争力の向上を図るとともに、それに資する人材を育成する。

・航空宇宙機設計と生産の融合、工学・情報学・人文社会科学・環境学など学際的分野の統合および自動車、工作機械など他産業における技術・システムの導入によって、世界をリードする技術開発、空飛ぶモビリティの社会実装とそれによる社会課題の解決に寄与する。



量子フロンティア
産業創出拠点

- 我が国の産業が強みを有する化学・材料等の分野の技術と量子技術の融合により、産学官連携の下で、新たな切り口で化学・材料等の先導的な技術や新たな事業・サービスのフロンティアを開拓し、新産業の創出や産業活動の高度化を支援する。さらに、化学・材料分野と量子技術分野の双方に精通し、分野間の連携・融合の担い手となる人材の育成も推進する。

1. 東海国立大学機構のミッション・ビジョンと共に発展モデル

2. 岐阜大学の組織/ミッション・ビジョン・戦略/「ぎふのミ・ラ・イ・エ」構想

3. 活動実績等

4. 法人統合による効果

5. Visionの実現に向けた取組

教育・人材育成 ~真に学生本位で、国際通用性のある質の高い教育により、社会で活躍する人材を養成する~

国際展開 ~グローカルリーダーの育成と留学生ネットワークの構築により地域に根差した国際化を実現~

研究・価値創造 ~世界最高水準の研究拠点を形成し、地域社会から人類が直面している諸課題を解決する~

社会連携・产学連携 ~産業競争力向上や大学発ベンチャーの創出、产学協働拠点の形成を通じてT-PRACTISS構想を実現する~

6. ご支援のお願い



★入試改革

岐阜大学を地域活性化の中核拠点(地域中核大学)として実現するための入学者選抜と今後の予定

【若者の夢を実現する岐阜大学 Mission Vision】・【「ぎふのミ・ラ・イ・エ (Migration, Laboratory, Innovation, Education)」構想】の実現にむけて

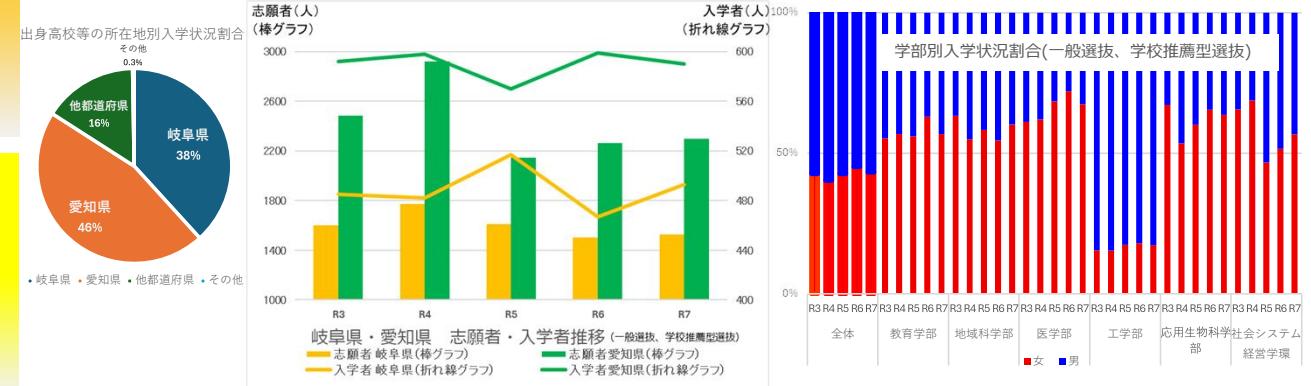
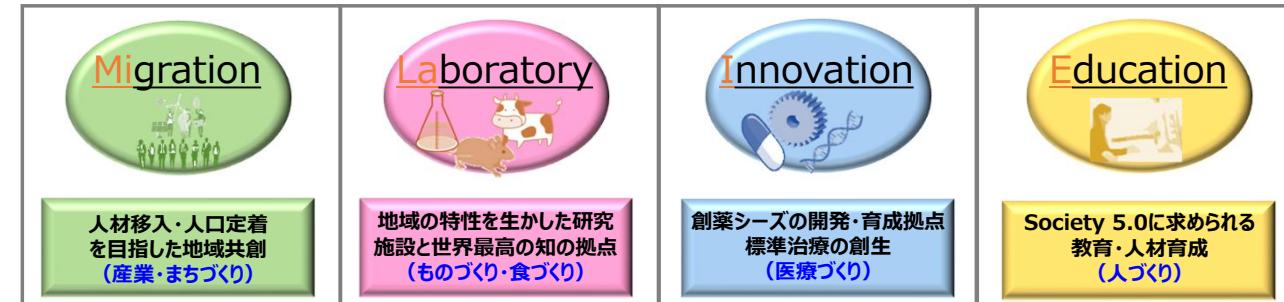
- ◆ 地域中核大学の役割として、地域社会で**活躍できる若者人材**を募集し、育成することが重要なテーマ
- ◆ 地域の中・高校生へ「ぎふのミ・ラ・イ・エ」構想等の情報発信・各研究機関等が実施する行事やイベントなどの案内・**岐阜県内の高校等との連携事業の推進**
- ◆ 地域活性化を担う若者が岐阜大学へ入学することができる入試改革を検討

教育・人材育成
(勇気をもってともに未来を創る人材の育成)
真に学生本位で、国際通用性のある質の高い教育により、社会で活躍する人材を養成する。
 (1)未来社会に必要な基盤教育の充実
 (2)情報デジタル基盤を活用した学修環境整備と学生支援の充実
 (3)世界に通じる研究者や高度専門職業人養成のための大学院教育の充実
 (4)地域ニーズに応じた地域活性化人材育成とリカレント教育の推進
 (5)知の生産・価値創造を先導する教育組織への不断の見直し

【直近の主な入試改革】

- 教育学部清流入試(学校推薦型選抜Ⅱ)の実施
 - 岐阜県出身入学者の増加
 - 大学選択時期(受験決定時期)の早期化
 - 教員採用率の向上
- 医学部医学科地域枠推薦入試(学校推薦型選抜Ⅱ)の実施
 - 岐阜県出身入学者の増加
 - 県内病院就職率の向上
 - 地域医療コース設置に伴う、地域医療への充実
- 工学部電気電子・情報工学科情報コースの定員を20名増員
 - 岐阜県の産業の変革を情報技術により先導する人材の育成
 - 学科を超えて情報系科目を強化し、情報系人材の裾野を拡大

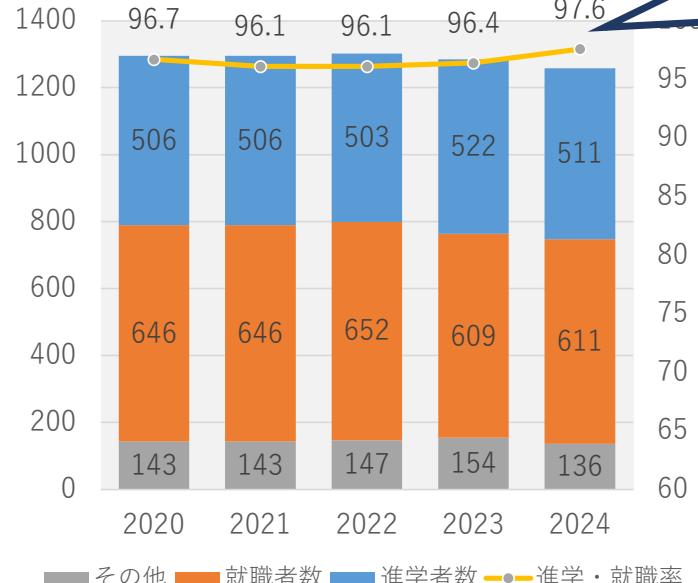
「ぎふのミ・ラ・イ・エ」構想 -岐阜大学の目指すべき姿-



【今後の予定】

- 工学部学校推薦型選抜Ⅰ(共通テスト課さない)の来年度実施
 - 宇宙人材の育成を目的、県内高校生が主なターゲット ※工業に関する学科対象
- 教育学部総合型選抜、学校推薦型選抜Ⅰの検討
 - 年内入試の導入により岐阜県内で活躍したい高校生を早期に確保
- 理系希望の女子を対象とした入学者選抜の検討

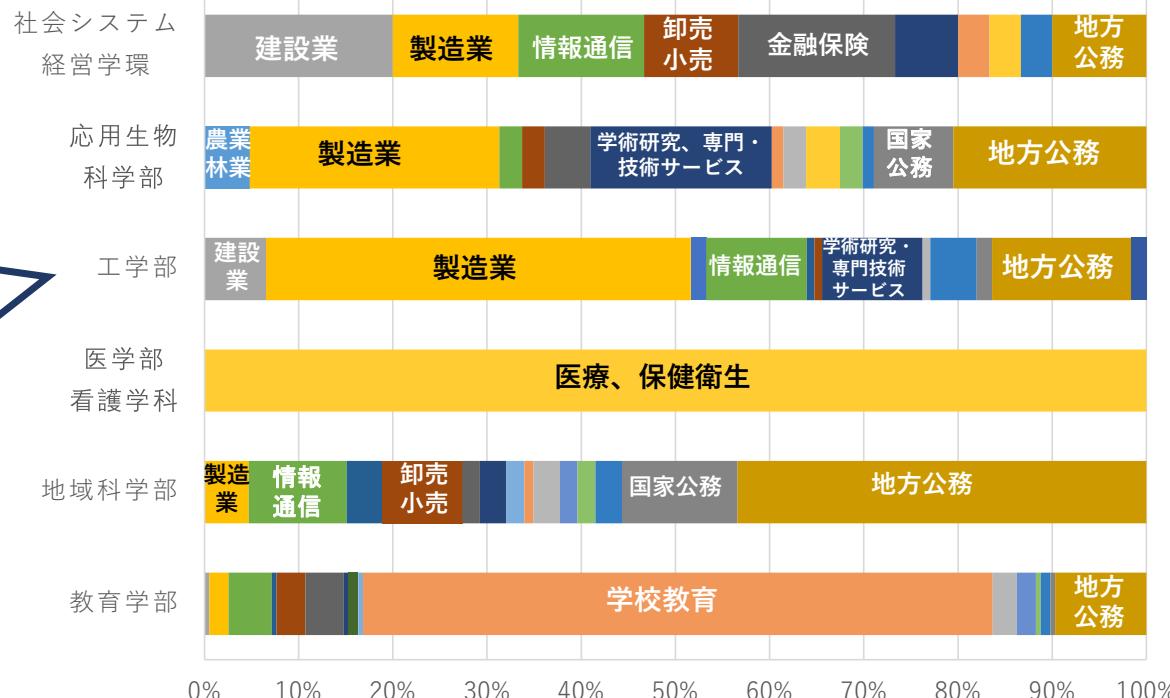
学部卒業後の状況推移



令和6年度卒業生の進学・就職率は
97.6%

各学部の特性に
応じ、幅広い産
業に就職

岐阜県、愛知県
を中心に地元に
就職



※原則として就職先企業等の本社所在都道府県で計上

R6年度	教育学部	地域科学部	医学部看護学科	工学部	応用生物科学部	社会システム経営学環
卒業生の主な就職先	公立学校教員、岐阜県、大垣共立銀行	岐阜県、厚労省、国交省、名古屋市、岐阜市、愛知県、岐阜信用金庫	岐阜大学、名古屋市立大学、岐阜県、一宮西病院	名古屋市、イビデン、愛知県、岐阜県、レシップホールディングス、オンタ製作所、中部テレコミュニケーション	農水省、愛知県、岐阜県、日本食品分析センター、山崎製パン	十六フィナンシャルグループ、岐阜市

社会システム経営学院の設置 研究科等連係課程実施基本組織（修士課程）の設置

設置日：令和7年4月1日 入学定員：6名

【設置の趣旨・必要性】

岐阜県を含む地方では、人口減少・少子高齢化等多くの課題に直面しており、地域のステークホルダーからは組織リーダーの育成が必要であるといった強い要望が寄せられていること、また、地方の教育・研究機関として、**地方の経営課題を解決できる人材育成に資するためには、社会システム経営学のさらなる深化と高度化を推進するための修士課程の設置**を通じて、組織リーダーの育成に取り組むことが必要不可欠と考えられることから、社会システム経営学院を設置するものである。

応用生物科学部の改組 2課程1学科を4学科へ改組

設置（改組）日：令和7年4月1日

【設置（改組）の趣旨・必要性】

次世代社会ニーズに応えるため、生命・食・環境をもとに専門性を再構築・組織化し、課題解決に必要な専門性の涵養に加え、課題解決型教育を強化することにより実践力のある人材を輩出するため、これまでの2課程（応用生命科学課程、生産環境科学課程）を生命・食・環境を柱とする3学科（応用生命化学科、食農生命科学科、生物圏環境学科）に再編し、共同獣医学科を加えて4学科体制とするものである。

工学部/自然科学技术研究科入学定員の増員 情報工学科（学士）及び知能理工学専攻（修士）定員増

入学定員増：令和7年度入学以降

入学定員の増員とともに以下の人材育成を強化

■学士課程：現象を数理、情報の観点からモデル化するために必要な論理的知識や具体的な課題解決法を実装する技術等を身に付けた人材を育成。
■修士課程：情報科学の知識と技術を用い、データ駆動型人工知能を利用しながら、問題解決、価値創造、革新ができる研究者・技術者を育成。

■工学部電気電子・情報工学科情報コース（学士課程）

R 7.4 20名増員（70→90名）

■自然科学技术研究科知能理工学専攻知能情報学領域（修士課程）

R 7.4 10名増員（43→53名）

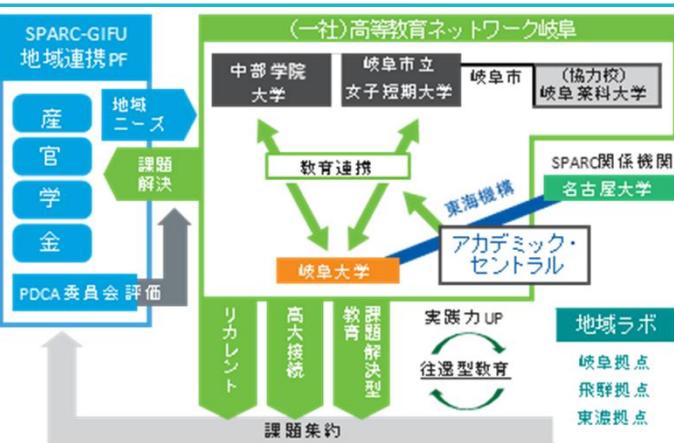
R 11.4 15名増員（53→68名） ※今後別途申請を行う予定

教育を軸に産官学金が連携し、地域変革の核となる

ぎふ地域創発人材育成プログラムSPARC-GIFU進行中



岐阜大学は、文部科学省による「地域活性化人材育成事業～SPARC～」2022年度採択)の事業責任大学として、「ぎふ地域創発人材育成プログラム～地域活性化を目指した知的基盤の確立～」事業を、中部学院大学、岐阜市立女子短期大学と連携して推進しています



このプログラムでは、3大学（岐阜大学、中部学院大学、岐阜市立女子短期大学）で「（一社）高等教育ネットワーク岐阜」を設立後、2024年3月28日に文部科学省から大学等連携推進法人として認定を受け、3大学で連携開設科目の開講が可能となりました。また地域の産官学金各組織を結集したSPARCの活動を推進する「SPARC-GIFU地域連携プラットフォーム」が結成され、運営協議会においては地域が求める人材像やその資質・能力を定めています。さらに岐阜、飛騨、東濃に地域ラボを設置し、地域社会をフィールドとした実践型PBL(Project Based Learning) や社会人向け教育「スゴ腕リーダー育成講座」を開講しています。

今後も地域社会との共生を念頭に、課題解決につながる活躍や新規事業の創業・起業を目指し、地域社会の発展に貢献する人材を育成していきます。



2024年3月13日、第1回SPARC-GIFUシンポジウム



2025年2月11日、第2回SPARC-GIFUシンポジウム



岐阜市、中津川市、高山市

3つの地域ラボで地域連携教育を展開

岐阜市、中津川市及び高山市に、地域社会での実習の拠点や各地の高校生や社会人向け事業の会場となる「地域ラボ」を設置するとともに担当教員や地元の支援員を配置し、地域ラボを舞台として各種事業を展開することで、SPARC-Gifuの成果を県内各地に波及させることを目指します。

地域ラボ・岐阜

カンダまちおこし株式会社内
Neo work-Gifu

～地域と大学を結ぶ場～

大学生・高校生・社会人が「地域社会で生じる課題を知る・学ぶ・解決策を考える・話し合う場」「自ら課題解決できるための自己研鑽を行う場」として、まずは気軽に立ち寄れる場所を目指します。

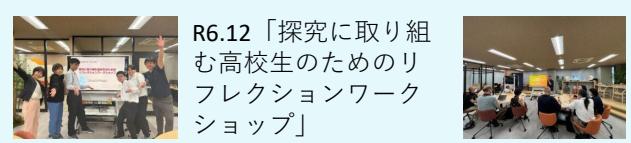


【様々な企画を開催】

主に火水木金曜日に各種イベントを開催しています。シーカツ、超短時間雇用、勉強ノート、会議＆議事録の書き方等多彩なテーマで開催



R6.7 「地域ラボ・岐阜×カンダまちおこし～改めましてのキックオフ！～」地域の課題解決のエコシステムを創る場として活動していくことを共有。今の岐阜、今後の可能性について80名超の参加者を交えて話し合いを行いました。



R6.12 「探究に取り組む高校生のためのリフレクションワークショップ」

R6.9 「あなたの課題にゲミフィケーションを活かしてみませんか？～防災減災の備え×ゲーム～」

地域ラボ・高山



若者等活動事務所「村半」内

～地域力向上に貢献～

大学の専門的知見を活かした講演会や勉強会の開催、地域の企業や地方自治体・高等学校等の多様な主体とのネットワーク構築、学生による地域課題解決に資する実習等を通して、地域特有の課題抽出や解決の取り組みを進め、地域力向上に貢献すべく活動します



R7.2飛騨高山のおみやげ事情を知る会



飛騨高山ものづくりアカデミーの様子



創業者セミナーの様子



R7.3～岐阜大学生と一緒に～地域プランディングを考える～



R6.8自分たちでつくる減災Go! in 高山



R6.5ユーターンシップ×岐大生交流会

地域ラボ・中津川



中津川市ひと・まちテラス向かい

～学ぶ人が出会うフラットな場～

様々な出会いと学びの機会を、中津川を含む東濃地域の皆様に提供し、大学と地域を繋ぐだけでなく、色々なステークホルダーを繋ぐ「ハブ」としての役割を目指します。



毎月第一日曜日開催の日曜Lab.の様子



創業に関する勉強会 (Bizラボ@六斎市)



R6.6馬籠ガイドボランティア～現地視察～



R6.9～11中津川商業高校との連携授業（全7回）



R7.3～新しい中津川をソウゾウする～中津川3.0キックオフセミナー

**ぎふハイスクールサット(GHS)プロジェクト JAXA ヘフライトモデルの引き渡しが完了
 岐阜の高校生が制作した人工衛星が宇宙へ！**



岐阜県では、宇宙産業を将来の「中核産業」として育成・支援するため、令和3年度に、「ぎふ宇宙プロジェクト研究会」を設置。令和4年度より岐阜大学、高専・工業高校、県内企業及びJAXAと連携して小型衛星の設計・製造・打上げ・運用までを一貫して行う実践的なプログラム「ぎふハイスクールサット(GHS)プロジェクト」を発足。

GHSプロジェクトの取組

ミッション

プロジェクト事務局・運営・技術協力
 岐阜大学

衛星設計・製作役割分担(発足時)

- 構造・筐体チーム 岐阜工業高校
- 電力チーム 大垣工業高校
- 制御チーム 可児工業高校
- 無線通信チーム 岐南工業高校

技術補助・アドバイス
 岐阜県内企業

2022 キックオフ

2023

2024

2025 打ち上げ

Mission 01 地球からの指令により、宇宙から地球を撮影し画像を地球へ送信
Mission 02 宇宙から無線で地球へ発信(誰もが無線で受信可能)

※人工衛星は地上から約400kmの高さの軌道を1周約90分で周回

1 人工衛星の学習と構想
 2 ミッション決定
 3 設計
 4 初号試作機製作
 5 試作機製作・環境試験
 6 フライトモデル製作・
 7 引き渡し準備・完成

令和7年8月24日「らいちょう」が宇宙へ

日本時間15時45分に、ケネディ宇宙センターから、「らいちょう」を載せたロケット「Falcon 9」が宇宙へ飛び立ちました。会場へ集まった県や地元高校生、企業関係者などから大きな歓声と拍手が沸き起こりました



打ち上げ成功に沸く会場
 (OKB岐阜大学プラザ)



フライターモデル
 と同型のプロト
 フライターモデル

令和7年9月19日「らいちょう」がISSから衛星軌道へ

岐阜県庁でライブビューイングイベントを開催。関係者約70名が集まり宇宙への放出を見守りました。「らいちょう」が宇宙空間へ放出されると、会場は拍手と歓声に包まれました。



開発に関わった高校生や関係者約70名が集まったライブビューイングの様子 (岐阜県庁20階清流ロビー)

岐阜大学発、スタートアップの創出・成長を支援する

アントレプレナーシップ教育の推進

岐阜大学は、学術研究・産学官連携推進本部の機能を強化し、岐阜大学発スタートアップの支援体制を整備してきました。具体的にはスタートアップ創出支援・起業家育成のための専任支援人材の配置や、研究成果から生まれる起業シーズの発掘・育成と経営者とのマッチング促進、さらには授業や起業部との連携を高めたアントレプレナーシップ教育の推進、起業ファンド申請支援などを行っています

■岐阜大学公認起業部の活躍: 社会課題解決のための事業創出を担う起業家精神を持つ人材の育成・輩出、社会的インパクトのある学生スタートアップの創出、研究成果の社会展開、東海地域活性化/エコシステム構築への貢献を目指した活動が成果をあげています。

■東海地域の起業家育成プロジェクト「Tongaliプログラム」に参画: 岐阜大学は、Tongaliプログラムに幹事校として積極的に参画し、アイデアピッチコンテスト、ビジネスプランコンテストなどにおいて受賞する優秀なチームを数多く輩出しています。

FiberCrazeが開発する高機能性繊維Craze-tex®、doubletのParis Fashion Week Fall-Winter 2025に採用
FiberCraze HPより

2025年1月28日(火) 11:00

パリファッションウィークの様子はこちから



doublet

FiberCraze

(クレース・テックス)が、世界的に注目を集めるデザイナー井野将之氏が立ち上げた日本のファッションブランド「doublet (ダブルネット)」のParis Fashion Week Fall-Winter 2025におけるルックに採用されたことをお知らせいたします。



代表取締役
長曾我部 増也さん

全国最大級のビジネスコンテストの大賞をはじめ
数々の主要コンテストで最優秀賞を獲得!

SHUNYA CHOSOKABE	NANAKO NOMURA	MOEKA SUDIE	ITSUKI NATSUME	RYOTA SUGIMOTO	SHION ITO	KAISHIN NISHIGAKI
長曾我部 増也さん ■FiberCraze株式会社 代表取締役 経営企画・新規事業開拓 2023年3月登記	野村 真弓子さん ■岐阜大学 生命科学部 代助教講師 2023年4月登記	杉江 葵花さん ■岐阜大学 生命科学部 准助教講師 2023年4月登記	夏目 一輝さん ■岐阜大学 生命科学部 代助教講師 2023年4月登記	杉本 慶太さん ■Umai Japan株式会社 代助教講師 岐阜大学 生命科学部 准助教講師 2023年4月登記	伊藤 里奈さん ■岐阜大学 生命科学部 准助教講師 岐阜大学 生命科学部 准助教講師 2023年4月登記	西原 俊輔さん ■岐阜大学 生命科学部 准助教講師 岐阜大学 生命科学部 准助教講師 2023年4月登記
R3年 キャンバス ベンチャーグランプリ 全国大会 大賞(1位)	R3年 キャンバス ベンチャーグランプリ 全国大会 特別賞	R3年 キャンバス ベンチャーグランプリ 中部大会 大賞(1位)	R3年 Tongali ビジネスプラン コンテスト 最優秀賞	R4年 Tongali ビジネスプラン コンテスト 最優秀賞	R4年 Umai Japan ビジネス創造コンテスト 最優秀賞(全国1位) グローバルビジネス賞	R5年 Tongali ビジネスプラン コンテスト Tongali賞(3位)
R3年 キャンバス ベンチャーグランプリ 中部大会 大賞(1位)	R3年 キャンバス ベンチャーグランプリ 中部大会 特別賞	R3年 東海学生AWARD 最優秀賞	R3年 きふビジネスアイデア、 プレゼンテーション 最優秀賞	R4年 Tongali アシアピッチ コンテスト 名銀賞、 あすさ監査法人賞	R4年 大学SDGs ACTION! AWARDS 準グランプリ(全国2位)	R4年 SDGs実現 AWARDS 最優秀賞(全国1位)
R3年 FiberCraze株式会社 最優秀賞	R3年 東海学生AWARD 最優秀賞	R3年 Tongali アシアピッチ コンテスト 最優秀賞	R3年 きふビジネスアイデア、 プレゼンテーション 最優秀賞	R4年 NAGOYA CONNECT PICHI 共創アカデミー 最優秀賞	R4年 Tongali アシアピッチ コンテスト 最優秀賞、 海外チャレンジ賞	R5年 株式会社LiemPia 起業

岐大のいぶき49号掲載

岐阜県特産の富有柿をブランド化し、
生産から販売、輸出までを行う会社を起業。
日本の農産物を名実ともに世界一にしたい。

2023年7月にUmai Japan株式会社を起業した応用生物学部の杉本俊太さん。同社が取り扱う岐阜県特産の富有柿は、国内の高級スーパーイートン、マクドナルド等で販売されるほか、海外有名レストランのメニューにも採用されています。これまでの歩みと今後の目標について伺いました。



Umai Japan
株式会社 代表取締役
杉本 俊太さん
応用生物学部 生命環境科学課程 4年

**大学認定制度発足及びTongaliプログラム参画による
岐阜大学発ベンチャーの創出・成長支援**

岐阜大学では、本学で得られた研究成果等を活用した新たな技術やビジネス手法をもとに起業した企業等を「岐阜大学発ベンチャー」として認定する制度を制定しました。 (2019年4月制定)

■ 令和7年3月現在 大学発認定ベンチャー (累計12社)

株式会社フォトニック・エッジ、株式会社Lukos、GRC株式会社、株式会社GF・Mille、株式会社e-NA Biotec、株式会社ゼノバイオティック、FiberCraze株式会社、サグリ株式会社、株式会社GIFU EXOSOME、株式会社 Gifu BioPharma、株式会社OhGooD、株式会社 Vascular Works

ベンチャー創出・成長支援の仕組み



■ 「Tongaliプログラム」に実施機関として参画

Tongali : 東海地区の大学コンソーシアムによる起業家育成プロジェクト

実施機関 : 27機関 (名古屋大学、岐阜大学、名古屋工業大学、豊橋技術科学大学、三重大学、名城大学、中京大学、藤田医科大学、岐阜薬科大学、外)

岐阜大学関連ベンチャー企業数の推移



関連大学別大学発ベンチャー数

順位	大学名	企業数
1	東京大学	468
2	京都大学	422
3	慶應義塾大学	377
4	大阪大学	298
5	筑波大学	264
6	東京理科大学	226
7	東北大学	222
8	東京科学大学	187
9	早稲田大学	166
10	立命館大学	160
11	名古屋大学	153
12	北海道大学	147
13	九州大学	119
14	近畿大学	118
15	デジタルハリウッド大学	117
16	神戸大学	113
17	情報経営イノベーション専門職大学	85
18	岐阜大学	83
19	千葉大学	70
20	広島大学	67

経済産業省産業技術調査事業大学発ベンチャー実態等調査の定義による

経済産業省令和6年産業技術調査 (大学発ベンチャー実態等調査) 報告書より抜粋

1. 東海国立大学機構のミッション・ビジョンと共に発展モデル

2. 岐阜大学の組織/ミッション・ビジョン・戦略/「ぎふのミ・ラ・イ・エ」構想

3. 活動実績等

4. 法人統合による効果

5. Visionの実現に向けた取組

教育・人材育成 ~真に学生本位で、国際通用性のある質の高い教育により、社会で活躍する人材を養成する~

国際展開 ~グローカルリーダーの育成と留学生ネットワークの構築により地域に根差した国際化を実現~

研究・価値創造 ~世界最高水準の研究拠点を形成し、地域社会から人類が直面している諸課題を解決する~

社会連携・产学連携 ~産業競争力向上や大学発ベンチャーの創出、産学協働拠点の形成を通じてT-PRACTISS構想を実現する~

6. ご支援のお願い



国際展開 ~グローカルリーダーの育成と留学生ネットワークの構築により地域に根差した国際化を実現~
学術交流協定大学 大学間<20カ国51大学> 令和7年9月12日現在

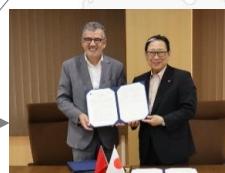
**ジョイント・ディ
グリー連携大学**



ヨーロッパ・アフリカ大陸

国名	締結年	協定大学等名
エジプト	2009	ベンハーハ大学
スペイン	2018	サラマンカ大学
ドイツ	2002	エルフルト大学
ハンガリー	2008	バイロイト大学
フランス	2001	パンノン大学
モロッコ	2014	パリ・サクレー大学
リトアニア	2020	リール大学
		ラバト国際大学
		カウナス工科大学
		ヴィータウタス・マグヌス大学

24'7 ラバト国際大学長
等が本学を訪問



国名	締結年	協定大学等名	国名	締結年	協定大学等名	国名	締結年	協定大学等名
インド ネシア	2014	インド工科大学グワハティ校	タイ 中国	1992	ソウル科学技術大学校	中国	2005	華僑大学
	2018	アッサム大学		2010	高麗大学校		2006	同濟大学
	2001	アンダラス大学		1999	カセサート大学		2007	内蒙古大学
	2006	ランポン大学		2003	チェンマイ大学		2011	内蒙古師範大学
	2010	ボゴール農科大学		2005	キングモンクット工科大学トンブリ校		2001	バングラデシュ農業大学
	2012	ガジャマダ大学		2025	シーナカリンウイロート大学		2004	ダッカ大学
	2013	スプラス・マレット大学			浙江大学		2018	マリアノ・マルコス州立大学
	2021	プラヴィジャヤ大学			広西大学		1998	ハノイ工科大学
	2022	バンドン工科大学			電子科技大学		2018	フエ大学
	1995	グリフィス大学			江南大学		マレーシア	マレーシア国民大学
	2000	シドニー工科大学			内蒙古農業大学			
					吉林大学			

アジア大陸・オセアニア



24'7 シーナカリンウイロート大学
長等が本学を訪問



23'6 マレーシア国民大学
副学長等が本学を訪問



23'8 マリアノ・マルコス州
立大学学長らが本学を訪問

アメリカ大陸

国名	締結年	協定大学等名
アメリカ合衆国	1985	サンディエゴ州立大学
	1990	ノーザンケンタッキー大学
	1997	ユタ州立大学
	2020	南フロリダ大学
カナダ	2017	マギル大学 アルバータ大学 レイクヘッド大学
ブラジル	1984	カンピーナス大学

**参考 部局間連携大学
<28カ国1地域64大学>**

インド工科大学グワハティ校と取り組む「令和4年度大学の世界展開力強化事業」の中間評価で「S評価」獲得

令和4年度採択「大学の世界展開力強化事業」にて、インド工科大学グワハティ校（IITG）とのJDP実施とともに岐阜県内企業のインド展開を支援する仕組みづくりに取り組んでいる。本学はインドとJDPを構築した我が国唯一の大学として認知されており、日本政府の海外向け広報動画“Multi-layered Connectivity to Northeast India”において大きく取り上げられた。今後も両大学の交流を通して、高度人材育成および地域・国際社会の発展に貢献する。

インド工科大学グワハティ校（IITG）

創立：1994年 学部等：工学部（バイオサイエンス＆バイオエンジニアリング
 学生数：約8,500人 化学工学 化学 土木工学 コンピュータサイエンス＆エンジニアリング デザイン 電子・電気工学 人文・社会科学
 教員数：約450人 数学 機械工学 物理学）



भारतीय प्रौद्योगिकी संस्थान गुवाहाटी
 INDIAN INSTITUTE OF TECHNOLOGY GUWAHATI



（特徴）教員の多くが産業界や研究所と密接に連携し最新の開発情報を提供、大学院生のイノベーションと研究を促進。
 THE 世界ランキング601-800位（2024）
 QS 世界ランキング 364位（2024）

JDP（ジョイント・ディグリープログラム）

日本と海外の学位が一度に取得できます

ジョイント・ディグリープログラムで
 取得できる共同学位が意味するもの

両大学から質保証された
 学位取得者



国際通用性がある修士号・博士号取得者
 という社会的地位を得る



就職先

国際展開する企業
 国際的な研究機関
 国内外の高等教育機関
 など



学位記のイメージ

- IITGとのJDP 3専攻
 【自然科学技術研究科】
 国際連携食品科学技術専攻
 【連合農学研究科】
 国際連携食品科学技術専攻
 【工学研究科】
 国際連携統合機械工学専攻

大学の世界展開力強化事業

インド工科大学グワハティ校（IITG）等と連携して、JDPを中心とする地域活性化推進モデルを共創する。

- ✓ 地域開発をけん引するグローカル高度人材の育成
- ✓ インド及び他地域に拡張できるCertificate型教育の開発
- ✓ 「グローカルJDPプラットフォーム」による日印二国間交流（東海・北東インドを中心とする企業・自治体・政府機関の交流）



日印連携修了証発行型教育
 プログラム

JD CONSORTIUM



Global + Local=Glocal
 国際協働教育を中心とした地域国際化を推進する取組み

インド工科大学グワハティ校との交流が 日本政府の海外向け広報動画に採用



広報動画 "Multi-layered Connectivity to Northeast India" (日本とインド北東州の多層的連結)(使用言語：英語) 【出典：内閣府政府広報室】
<https://www.youtube.com/watch?v=YbdWzc3E6-E>



インテリジェント・マニュファクチャリングにおける

【R7年度採択】

日印マイクロクレデンシャルを中心とした学生・社会人に対するシームレスな技術者養成プログラム

〈プログラムの狙い〉

Society 5.0の実現と多文化共生社会の推進を担う「変革推進人材」を育成。英語力・専門性に加え、日印協働や地域企業との共創を通じて、国際的視野と地域定着力を併せ持つ次世代人材を輩出する。

- ✓ 北東インドとの強い連携を基軸とするプログラム
- ✓ 学生間交流に加え社会人教育に展開
- ✓ 大学と地域の国際化を同時に進め日印交流を促進



次世代リーダーの育成を目指す、学部生向けの短期国際研修プログラム。渡航期間2週間以上を想定。AIの基礎理解から地域社会課題の探究、相手大学学生との共修（混成チームによる多文化協働）を伴うアイディア創出（アイディアソン）までを相手大学に渡航して実施する。

AI・ロボティクス・スマート製造技術の基礎から応用まで学ぶ修士レベルのマイクロクレデンシャル。インド工科大学グワハティ校（IITG）と岐阜大学の協働により、共修・渡航・オンラインを組み合わせたハイブリッド形式。履修証明プログラムとして社会人にも提供。

マレーシア国民大学、マラヤ大学（マレーシア）
アンダラス大学（インドネシア）への訪問（2025/9/8～15）

訪問教員：学長、教職員 計5名

2025年9月8～15日、岐阜大学訪問団は2か国3大学を訪問し、JDPの連携大学であるマレーシア国民大学（UKM）では新学長への表敬訪問と学内視察、マラヤ大学（UM）では今後の連携強化に向けた協力意向書の締結、インドネシアのアンダラス大学では創立記念行事に参加し吉田学長が基調講演を行いました。

マレーシア国民大学



9月9日（火）
2025年に新たに就任した学長への表敬・学内視察を行い今後の交流の深化に向けた意見交換を実施

9月11日（木）
医学部、病院訪問

マラヤ大学（マレーシア）

9月10日（水）
隈部産学連携准教授との共同研究プロジェクトに向けた協議を実施
今後の連携強化に向けた基盤づくりの一環として、協力意向書（Letter of Intent）を締結



アンダラス大学（インドネシア）

9月12日（金）
アンダラス大学執行部との懇談
9月13日（土）
アンダラス大学記念行事・吉田学長基調講演
アンダラス大学部局長等ミーティング実施
岐阜大学インドネシア同窓会懇談会出席



在マレーシア日本国大使館



9月10日（水）
在マレーシア日本国大使館 訪問・懇談会を実施

(参考) フランス及びリトアニアとの交流

リール大学（フランス）、ヴィータウタス・マグヌス大学（リトアニア）
への訪問（2024/9/5-8）

訪問教員：学長、教職員 計7名

2024年9月5～8日、吉田学長をはじめ岐阜大学訪問団は、連合農学研究科との共同指導学位プログラム（コチュテル）調印のため、リール大学（フランス）およびヴィータウタスマグヌス大学（VMU、リトアニア）を訪問



コチュテル（DDP）協定書の署名式（フランス・リール大学）

コチュテル（DDP）協定書の署名式（リトアニア・VMU）
→生命・農学分野の博士学生の共同指導が開始（2024～）

国際展開 ~グローカルリーダーの育成と留学生ネットワークの構築により地域に根差した国際化を実現~
(参考) 南フロリダ大学 (USF) との交流 (2024年、2025年)

2024/1/27-2/1

Law学長を表敬訪問

Caruson副学長 (USF World)

Sinnott副学長 (前医学部長)

奥田康晴センター長 (CALMS)

酒井敦子教授 (オナーズカレッジ)



2025/4/4-4/5

Law学長とCaruson副学長

(USF World) 、Lockwood副

学長 (医学部長) の他12名の

USF関係者、2名のタンパ市行

政関係者が岐阜大学を訪問



2025/6/25-6/26

南フロリダ大 (USF)
の学生との交流会

USFからは公衆衛生学
部の学生15名と教員2
名の計17名が来訪、交
換留学生4名を含む総
勢21名が参加



2024.8~2025.7の1年間に、海外大学等から10件の表敬訪問や視察等があり、大学間学術交流協定の更新・新規締結や、今後の交流促進についての意見交換が行われました。

訪問大学等	交流内容・訪問目的	訪問大学等	交流内容・訪問目的		
2024.8.26 駐日東ティモール特命全権大使	特命全権大使が本学在籍の留学生を激励。今後の交流について意見交換実施		2024.12.20 駐日インド共和國大使	インドとの交流、留学生や研究者の受け入れ・派遣の拡大等意見交換	
2024.10.18 アンダラス大学	エファ・ヨンネディ学長らが本学を訪問し、今後の展望について意見交換		2025.1.29 ヴィータウタス・マグヌス大学（リトアニア）	アジア研究センター長らが訪問し、これまでの学術文化交流の歴史や今後の展望について意見交換	
2024.10.29 駐日リトアニア大使	オーレリウス・ジーカス大使による特別講演会を開催		2025.3.27 シーナカリンヴィロート大学（タイ）	大学間協定を締結。両大学の学術交流がさらに深まり、今後より一層の教育・研究交流を推進	
2024.11.8 モンゴル生命科学大学	バダルチ・バーサンスフ学長らが本学を訪問。大学紹介や、交流の可能性がある分野について意見交換実施		2025.4.3~4.4 南フロリダ大学	訪問団17名が岐阜大学を訪問し、学内外施設の視察および学術交流協定書の更新調印式を実施	
2024.12.2 在名古屋米国領事館首席領事	岐阜大学と米国とのこれまでの学術・文化交流の歴史や今後の展望について意見交換を実施		2025.6.9~6.10 カウナス工科大学	モニカ・マジアキーン准教授らが本学を訪問し意見交換を実施	

1. 東海国立大学機構のミッション・ビジョンと共に発展モデル

2. 岐阜大学の組織/ミッション・ビジョン・戦略/「ぎふのミ・ラ・イ・エ」構想

3. 活動実績等

4. 法人統合による効果

5. Visionの実現に向けた取組

教育・人材育成 ~真に学生本位で、国際通用性のある質の高い教育により、社会で活躍する人材を養成する~

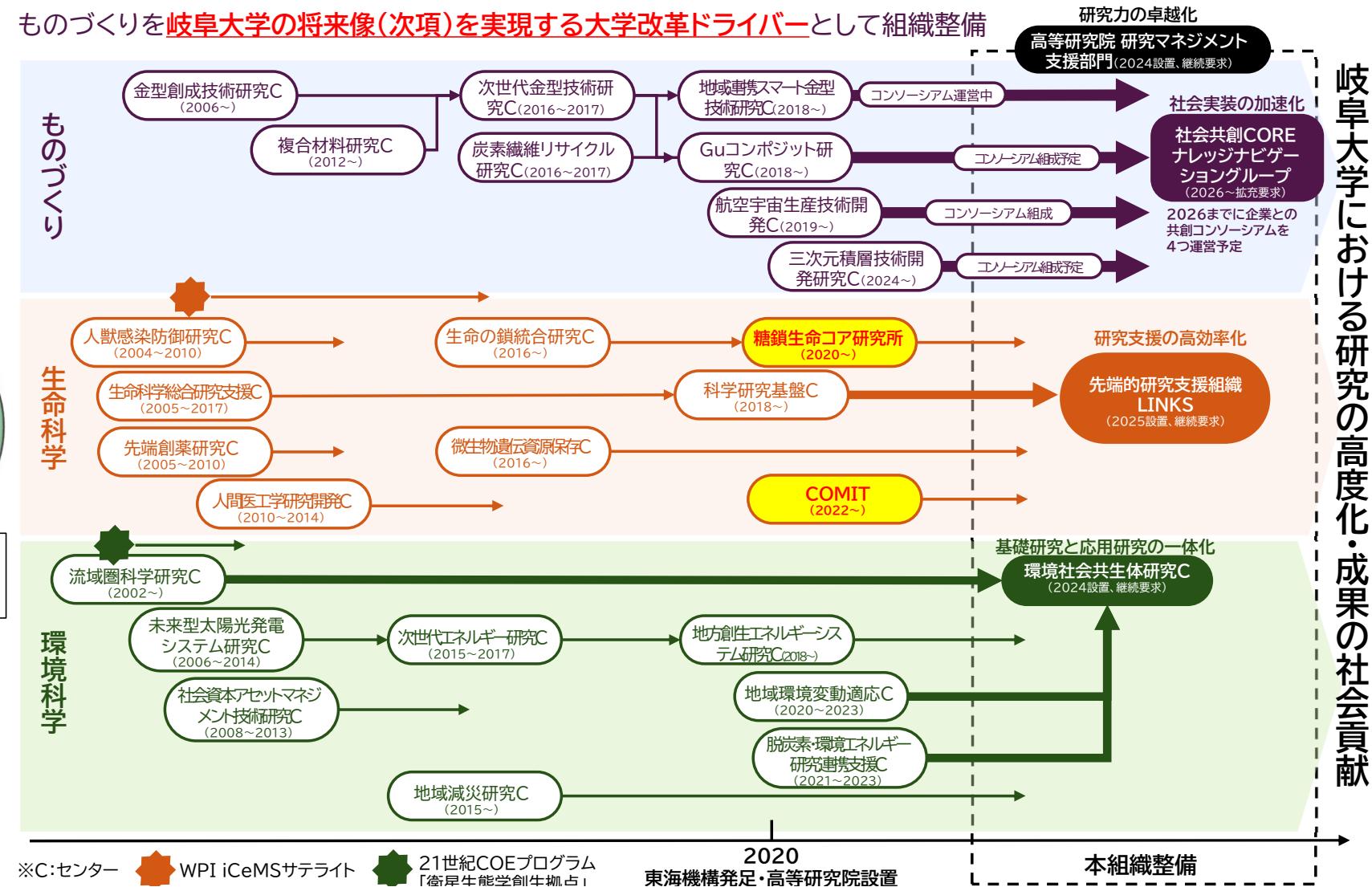
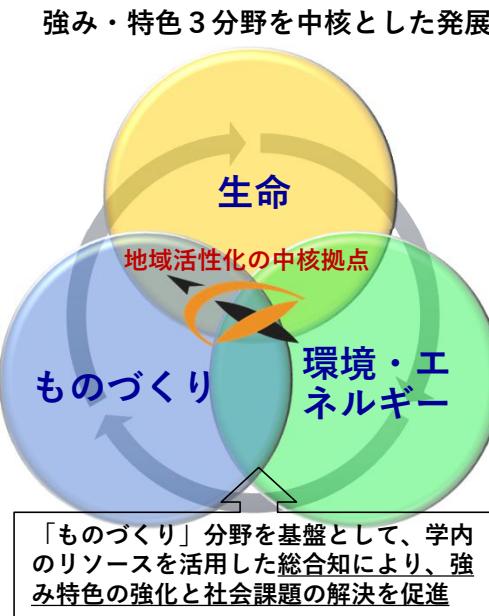
国際展開 ~グローカルリーダーの育成と留学生ネットワークの構築により地域に根差した国際化を実現~

研究・価値創造 ~世界最高水準の研究拠点を形成し、地域社会から人類が直面している諸課題を解決する~

社会連携・产学連携 ~産業競争力向上や大学発ベンチャーの創出、产学協働拠点の形成を通じてT-PRACTISS構想を実現する~

6. ご支援のお願い





研究・価値創造 ~世界最高水準の研究拠点を形成し、地域社会から人類が直面している諸課題を解決する~
糖鎖生命コア研究拠点 ~糖鎖研究発展のプロセス~

世界トップレベルの岐阜大学と名古屋大学の**研究者**が集結し、糖鎖分析、糖鎖数理モデルなどの分野をさらに強化。世界で無二の糖鎖生命コア研究拠点を設置。

医学・薬学・獣医学・生命科学の秀でた**研究者**を集結。

2016年10月、**生命の鎖統合研究センター**設置

2007年度**WPI 事業**へ参画

個人研究を推進

2020年4月、機構直轄拠点設置
医療革新につながる基礎研究を推進

2020年9月に学術研究の**大型プロジェクトの推進に関する基本構想ロードマップの策定－ロードマップ2020－**に掲載

国際プロジェクトとして世界展開

2022年4月より、**共同利用・共同研究拠点として認可**

3機関（東海機構、自然科学研究機構並びに創価大学）連携による共同利用・共同研究拠点



糖鎖生命コア研究所新棟
(2023年竣工)

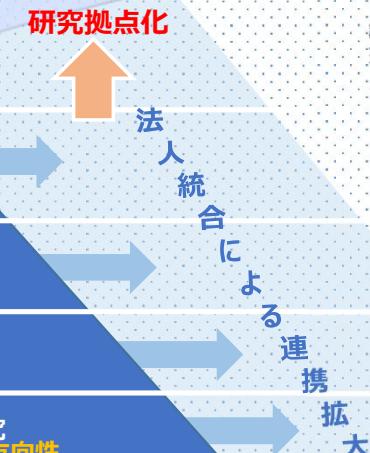
人間の全ての糖鎖を解読する世界初の挑戦となる国際プロジェクト、ヒューマングライコームプロジェクトを東海国立大学機構が主導。日本が世界の中心となりプロジェクトを牽引する。

ステージ1【個人研究推進期】
1970年代～
長谷川明教授、木曾真教授らが科研費・JST-CRESTなどにより個人研究を推進。

ステージ2【プロジェクト研究推進期】 2007年度～
2007年度より岐阜大学サテライトとして**WPI 物質—細胞統合システム拠点（京都大学iCeMS）**へ参画。
WPI事業の終了後、生命の鎖統合研究センターを設置し、**プロジェクト研究**を推進。

ステージ3【拠点形成期】 2020年度～
2020年度：東海機構直轄拠点として拠点形成が加速。
2020年度：糖鎖生命コア研究所を名古屋大学と共同設置
2022年度：共同利用・共同研究拠点へ認定され、**オールジャパンの研究体制**を構築。

ステージ4【国際プロジェクト展開期】
国際プロジェクトとしてヒューマングライコームプロジェクトを主導し、日本が**世界の中心**となり**世界展開**。



【シンポジウム】



R6.7 Glyco-core Symposium 2024を開催

J-GlycoNet（共同利用・共同研究拠点糖鎖生命科学連携ネットワーク型拠点）、HGA（ヒューマングライコームプロジェクト）及びCIBoG（名古屋大学卓越大学院プログラム）共催により、Glyco-core Symposium 2024を開催。国内外から400名を超える参加者があり、130題を超えるポスター発表と議論・交流、特別講演として米Harvard Medical SchoolのRichard Cummings教授の講演を行いました。

【他機関との連携協定等締結実績】



R7.1 GlySpace AllianceとHGAおよびJ-GlycoNetとの連携・協力に関する意向書締結

GlySpace Allianceの代表（Nicolle Packer教授、Macquarie大学）と門松健治 iGCORE所長（ヒューマングライコームプロジェクト代表、J-GlycoNet拠点本部長）が、意向書に署名。

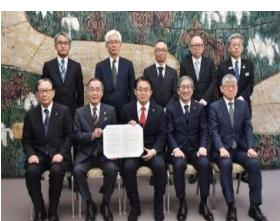
R7.2 東北大学東北メディカル・メガバンク機構「ToMMo」との包括的な連携に関する覚書を締結

ToMMoが持つ生体試料を用いて、ヒトの血液の糖鎖構造に関する大規模解析を実施し、「糖鎖」に関するデータベースの構築を進める予定です。従来の「セントラルドグマ」にある遺伝子・タンパク質に加え、糖鎖を同じ土台で解析することで、遺伝子・タンパク質・糖鎖から成る「拡張セントラルドグマ」の確立を目指します。



R7.2 愛知県医療療育総合センターと連携・協力の推進に関する協定を締結

センターが採取した患者血液の糖鎖解析を行い、センターが蓄積した多くの臨床情報と照らし合わせ、共同研究を推し進めます。そして、いまだ有効な治療法や診断方法が確立されていない希少疾患・未診断疾患のメカニズムを解明し、診断・治療方法の開発を目指します。

10月3日は
とうさ
「糖鎖の日」

第3の生命鎖「糖鎖」に関する研究・知識の普及とその重要性について啓発活動を推進しています。



【話題】「糖鎖」をもっと身近なものにするため、10月3日を10（とう）3（さ）の語呂を踏まえて、「糖鎖の日」として申請し、日本記念日協会にて認定されました。

【受賞実績】

- 🏅 Society for Glycobiology 2024 Annual Meetingで、富田晟太さん（木塚康彦教授G）がポスター賞およびTravel Grantを受賞
- 🏅 第76回日本細胞生物学会において、森俊貴さん（鈴木健一教授G）が学生優秀ポスター発表賞を受賞
- 🏅 Dr. Rebeca Kawahara Receives Inaugural 2024 Protein Metrics ECR Award
- 🏅 中川優准教授が「第21回農芸化学研究企画賞」を受賞

【主な論文掲載等】

- 鈴木健一教授、安藤弘宗教授らのグループの論文が“*Nature Communications*”に掲載
- 阿部洋教授研究グループの論文が*Nature Biotechnology*誌に掲載
- 北島教授、佐藤教授、Guérardel特任教授らの研究成果が“*BMC Biology*”誌に掲載
- 古川潤一特任教授、花松久寿特任講師らの論文が“*Journal of Gastroenterology*”に掲載
- 藤田盛久教授らのグループの論文が“*Journal of Cell Biology*”誌に掲載
- 岡島教授らのグループの研究成果が“*The Journal of Biological Chemistry*”に掲載
- 梶教授らのグループの研究成果が“*Molecular & Cellular Proteomics*”に掲載
- 木塚康彦教授らのグループの研究成果が“*iScience*”に掲載
- 池田将教授、安藤弘宗教授らのグループの論文が“*Communications Materials*”に掲載
- 中川優准教授らの研究グループの研究成果が“*Bioorganic & Medicinal Chemistry*”に掲載
- 木塚康彦教授らの研究グループの研究成果が“*Journal of Biological Chemistry*”に掲載
- 田中秀則准教授、安藤弘宗教授らの論文が“*Chemistry - A European Journal*”に掲載

2023.1 高等研究院内に One Medicine トランスレーショナルリサーチセンターを新設

2023.4 東海機構直轄拠点（現連携拠点）One Medicine 創薬シーズ開発・育成研究教育拠点として認定



Center for One Medicine Innovative Translational Research



「One Medicine」の視座のもと医薬品開発の成功率を高めるだけでなく、「Sharing Medicine」という新たな学術領域を開拓したい
拠点長 秋山治彦



創薬リサーチマネジメント人材実践的育成プログラム

創薬シーズ探索から臨床研究までのすべてのステップを総合的に理解した上で、それぞれの連携を強化・管理できる能力を持った人材の育成に取り組みます。実習やグループ討論を積極的に採用し、製薬企業担当者の参画を通して、「現場目線」の実践的な教育を実施します。育成される人材は、製薬企業等のリサーチマネジメント担当者、大学のURA、厚労・農水省の薬事担当者、創薬研究者などとして、社会に貢献することが期待されます。



非臨床研究における「魔の川」を克服すべく、創薬シーズの評価・分析、疾患モデル動物開発・非臨床研究、先端医療機器開発及び感染症研究開発の諸機能を集約し、創薬の基礎研究から非臨床研究まで一気通貫で推進するため、医獣薬一体型非臨床研究施設の整備を行う

- ヒトと動物の疾病の比較医学を推進するマルチモーダルデータベース構築に必須となる一細胞トランск립トーム機器、イメージング機器等の設備整備
- 疾患モデル動物の作製・飼育、感染症研究のための動物飼育と先端医療機器を用いた創薬シーズ評価を可能とする施設整備
- ヒトと動物の比較医学による疾病的病態解析や治療標的の特定、創薬シーズ研究に専念できる環境の整備

①医獣薬の融合研究ラボの整備



科学研究基盤センター
動物実験分野



旧RI実験施設の有効活用

②中型動物含め多様な動物種を動物病院と連携し研究推進する飼育施設の整備【入院動物舎改修】

②小型・中型動物研究・飼育施設の整備



応用生物科学部
入院動物舎

動物病院に隣接する入院動物舎を有効活用



①医獣薬の融合研究（比較医学を含めたオミクス研究）ラボの整備 【医学部生命科学棟2F改修】

令和6年度 One Medicine 創薬シーズ開発・育成研究教育拠点(COMIT)主な活動実績

【主なイベント等】

- R6.5/R6.10 東海創薬・医療機器開発フォーラム(創薬フォーラム) 開催
- R6.6/R7.3 岐阜大学COMITフォーラム (ミニブタTR) 開催
- R6.9 招待講演 (BINDSシンポジウム2024)
- 取材 (岐阜県ヘルスケア産業推進ネットワーク技術動向情報誌掲載)
- R6.10 BioJapan 2024出展
- R7.3 One Medicine創薬シーズ開発・育成研究教育拠点シンポジウム開催

R6.5 第10回創薬フォーラム
(株式会社新日本科学)



R6.10 第11回創薬フォーラム
(アステラス製薬株式会社)



R6.10 BioJapan出展



岐阜県ヘルスケア産業推進ネットワーク技術動向情報誌 (第13号)

【研究機関紹介】

有望な創薬シーズの開発・育成に向けたヒトと動物の創薬研究

岐阜大学高等研究院One Medicine トランスレーショナルリサーチセンター
東海国立大学機構連携拠点支援事業One Medicine創薬シーズ開発・育成研究教育拠点

2023年1月、医学、獣医学、薬学、工学等の研究者が分野横断的に連携し、ヒトと動物の創薬研究を行う高等研究院One Medicine トランスレーショナルリサーチセンターが岐阜大学に開所されました。また、同センターは名古屋大学 One Medicine生命・創薬共創プロジェクトフォームと連携し、東海国立大学機構連携拠点支援事業の一環として、One Medicine創薬シーズ開発・育成研究教育拠点 (Center for One Medicine Innovative Translational Research/以下通称COMIT) としても活動しています。今回は、拠点長を務める秋山 治彦教授 (岐阜大学医学部附属病院長) とともに活動しています。今回は、拠点長を務める秋山 治彦教授にCOMITを設立した背景やその研究内容、今後の展望などを聞きました。



【企業との連携協定等締結実績】

双方の高度な研究成果、国内外のネットワーク等を相互に活用し、ヒトと伴侶動物のWell-beingの実現を加速させる取組みとして、各社と包括連携協定を締結

日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社	R6.2.15
京セラ株式会社	R6.12.16
日本全薬工業株式会社	R7.1.9
ジンマー・バイオメット合同会社	R7.1.16



【主な受賞歴等】

- 宮脇慎吾准教授が令和6年度科学技術分野の文部科学大臣表彰受賞！
- 東小百合特任助教が第17回井上リサーチアワード受賞！ 他多数

【主な採択事業等】

- JST創発的研究支援事業
- AMED橋渡し研究プログラム 3件 (シーズH 2件 / preF 1件)
- AMEDスマートバイオ創薬等研究支援事業
- AMED次世代がん医療加速化研究事業
- スタートアップ・エコシステム共創プログラム(Tongali)
- 東海広域5大学ベンチャー起業支援

他多数



※強化・新規の拠点名称は仮称

「化学の観点」を組み入れた量子技術による化学・電子材料、電子機器、医療診断・治療の革新
目指すのは量子技術の社会実装

原子・分子レベルで量子状態を制御して医療および産業への利活用を促進する産業創出拠点を形成し、東海圏において量子研究の産業応用を加速させるとともに、新たな研究展開や新産業創出を図ります。

■ 国家戦略のひとつとして「量子技術イノベーション拠点」が発足
 東海国立大学機構は、第11番目の量子技術イノベーション拠点「量子化学産業創出拠点」として、2023年5月に認定。

■ 2024年4月「量子フロンティア産業創出拠点（Q-BReD）」設置
 岐阜大学医学部に「附属量子医学イノベーションリサーチセンター」、名古屋大学に「量子化学イノベーション研究所」を設置し、連携によるシナジー効果を生み出すべく東海機構の連携拠点支援事業の1つとして認定。



■ Q-BReDは、3つの研究部門及び統括部門から構成されます。



1. 東海国立大学機構のミッション・ビジョンと共に発展モデル

2. 岐阜大学の組織/ミッション・ビジョン・戦略/「ぎふのミ・ラ・イ・エ」構想

3. 活動実績等

4. 法人統合による効果

5. Visionの実現に向けた取組

教育・人材育成 ～真に学生本位で、国際通用性のある質の高い教育により、社会で活躍する人材を養成する～

国際展開 ～グローカルリーダーの育成と留学生ネットワークの構築により地域に根差した国際化を実現～

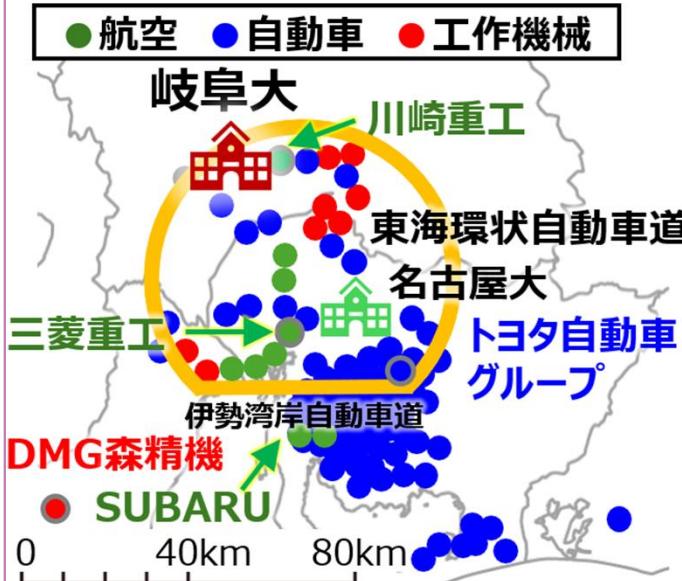
研究・価値創造 ～世界最高水準の研究拠点を形成し、地域社会から人類が直面している諸課題を解決する～

社会連携・产学連携 ～産業競争力向上や大学発ベンチャーの創出、产学協働拠点の形成を通じてT-PRACTISS構想を実現する～

6. ご支援のお願い



世界屈指の自動車・航空機産業の集積地



生産技術の主な教育研究拠点

①航空宇宙生産技術開発センター

- ▶ 国内初となる航空宇宙生産技術に関する教育・研究機関として設置。
- ▶ 【内閣府】平成30年度地方大学・地域産業創生交付金事業に採択(岐阜県)
- ⇒ 航空宇宙産業の抜本的な生産性向上のため、大学・企業の研究者が共同で『サイバー・フィジカル・ファクトリー』の実現に向けた研究開発を推進中。



②スマート金型開発拠点

- ▶ 文部科学省「地域科学技術実証拠点整備事業」に採択された「岐阜大学スマート金型開発拠点事業」を推進中。
- ⇒ 最新のセンシング技術やデータ解析を活用して、自律化・省人化したスマート金型による次世代型の生産システムの創出を展開。
- ⇒ ワイヤレスデータ送受信システムを開発し、金型による実生産における製品寸法不良の自動検出に世界で初めて成功。

③Guコンポジット研究センター

- ▶ 日本唯一、世界にも誇れる世界最大規模の炭素繊維パイロットラインを所持。
- ▶ NEDOや地元企業と連携し、世界最高レベルの「低コスト&サステナブル炭素繊維」の開発を推進。



社会実装研究を推進し、多数の成果を創出

持続可能な航空機生産のためのコンソーシアム CSAP（Consortium for Sustainable Aircraft Production）が発足

東海国立大学機構、ザ・ボーイングカンパニー、三菱重工業株式会社、川崎重工業株式会社、株式会社SUBARUは、「持続可能な航空機生産のためのコンソーシアム」の設立に合意し、2025年3月1日より活動を進めています。

CSAPは、航空機製造業界が直面する共通課題の解決に向けて協働し、業界全体の持続可能性の向上を目指す研究開発コンソーシアムです。特に、労働人口の減少に伴う人手不足への対応と、省エネ（脱炭素）につながる生産リードタイムの短縮を重要な課題と位置づけ、主に自動化（省力化）の推進による解決を図ります。CSAPでは、技術的なブレークスルーを生み出すため、大学のAIやロボットに関する研究シーズを活用し、これらの課題に対する革新的な解決策の創出に取り組みます。

このコンソーシアムの設立により、航空機製造業界全体の持続可能性が向上し、日本の航空宇宙産業が国際市場で優位に立つことが期待されています。

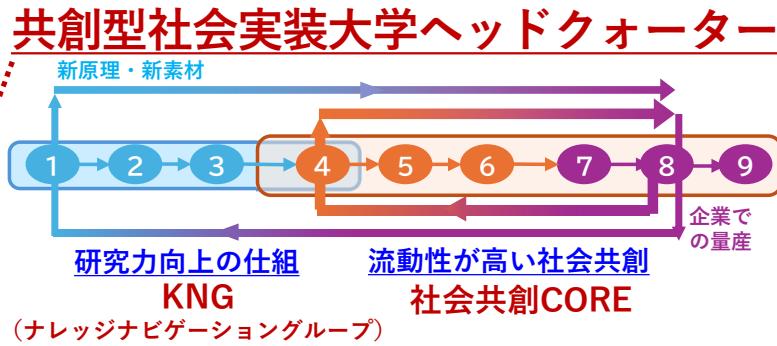


2025年3月27日 記者会見の様子

<https://ipteca.gifu-u.ac.jp/news/3901-2.html>



キャンパスまるごと
共創型社会実装大学に変革

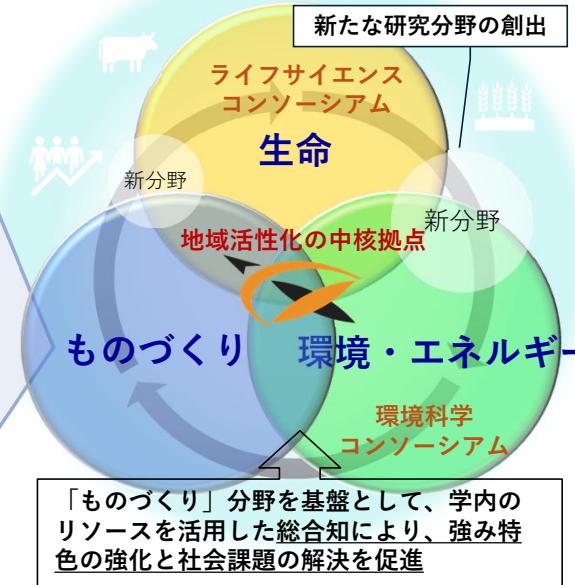


組織	ものづくり統括	社会共創研究開発部門 コンソーシアム運営支援部門 ものづくりコンソーシアム (航空、金型、3D積層、炭素繊維)
波及効果	岐阜大学： 研究力の向上 名古屋大学： 研究力の卓越化	岐阜大学： 研究資金充実による研究環境の改善 研究成果によるリピュテーション向上 部局横断・異分野融合研究の活性化 名古屋大学： イノベーション創出機能の強化



ぎふのミ・ラ・イ・エの実現（P7参照）

強み・特色3分野を中心とした発展



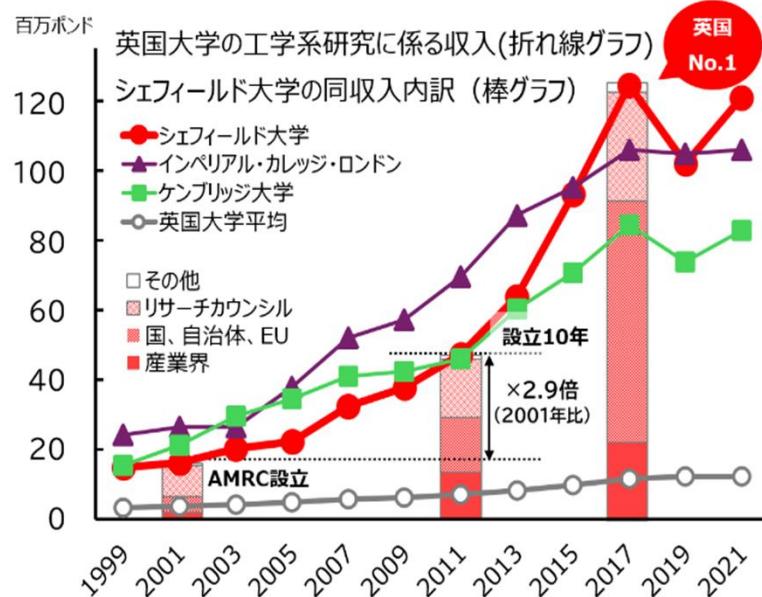
東海地域は世界屈指の自動車・航空機産業の集積地域であり、本学に隣接する東海環状自動車道で結ばれる半径50km圏内には、トヨタ自動車グループの他に、航空重工業3社、大手工作機械メーカーが密集している。この地の利を活かし、**ものづくりを岐阜大学の大学改革ドライバーとして組織整備する。** 組織整備後の波及効果として、ライフサイエンス、環境科学に共創研究の仕組みとノウハウを横展開する。

ベンチマーク機関

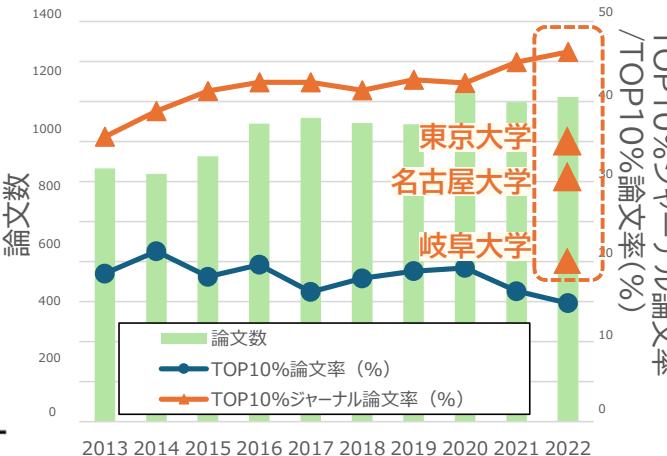
○英国シェフィールド大学

学生数：約28,000人
 THE世界ランキング2025：98位

- 英国中部工業都市シェフィールド（英国第5位、人口約52万人）に1905年設立 (参考)岐阜市人口40万人
- 英国大学ランキング上位10位、航空工学、機械工学は英国3位
- 工学分野の研究収入が英国トップ
- AMRCがシェフィールド大学の発展を牽引**



生産技術分野におけるシェフィールド大学の状況



2024年9月3日訪問

学生が選ぶUniversity of the Year 2024 – All UK 第1位

シェフィールド大学の教育施設 The Diamond
 学際的な工学教育のため実践的な実験等を行う



○岐阜大学

1980年代より
柳戸キャンパス
に順次移転

平成29年度文部科学省「地域科学技術実証拠点整備事業」に採択、**国内大学唯一**のスマート金型開発拠点



平成30年度内閣府「地方大学・地域産業創生交付金事業」に採択、**国内初**の航空宇宙生産技術拠点



1981



2019

キャンパスまるごと共創型社会実装大学へ



2035

○ベンチマーク機関:英国シェフィールド大学AMRC(Advanced Manufacturing Research Center)
～ものづくり分野における共創研究の世界的成功事例～

- 研究者・エンジニア約500名を企業経験豊かな企業代表、元官僚などでガバナンス
- 研究分野は、機械加工、鋳造、複合材料製造、設計とプロトタイピング、構造テストなど



1984



AMRC設立
2001年設立当初の
小さな施設
(Boeing出資)

2001

Boeing, Rolls-Royce,
McLaren等関連企業が集積



2023

経済効果 110億円/年

経済成長への年間寄与
(総付加価値:英国のGDPへの貢献額)

AMRCセンター群



2024年9月4,5日訪問

1. 東海国立大学機構のミッション・ビジョンと共に発展モデル

2. 岐阜大学の組織/ミッション・ビジョン・戦略/「ぎふのミ・ラ・イ・エ」構想

3. 活動実績等

4. 法人統合による効果

5. Visionの実現に向けた取組

教育・人材育成 ~真に学生本位で、国際通用性のある質の高い教育により、社会で活躍する人材を養成する~

国際展開 ~グローカルリーダーの育成と留学生ネットワークの構築により地域に根差した国際化を実現~

研究・価値創造 ~世界最高水準の研究拠点を形成し、地域社会から人類が直面している諸課題を解決する~

社会連携・产学連携 ~産業競争力向上や大学発ベンチャーの創出、产学協働拠点の形成を通じてT-PRACTISS構想を実現する~

6. ご支援のお願い



岐阜大学基金の紹介とご支援のお願い

岐阜大学基金について

岐阜大学基金は、平成21年6月に創設され、学生の奨学金や海外留学などの学生支援活動を中心に事業を展開してきました。しかし、現段階では資金規模が小さく、毎年度一定の資金を獲得する必要性があります。このため、令和2年4月には、岐阜大学基金における募金活動等を一層推進するため、Development Officeを設置しました。さらに、令和4年10月には、様々なステークホルダーと連携して新たな価値の共創を促す校友会が発足し、岐阜大学基金エコシステムの構築を目指しています。令和6年11月には、内閣府PEAKS事務局等が戦略策定の伴走支援を行う第3期PEAKS実証事業に『地域中核大学における基金充実のための戦略策定』が採択され、中長期の戦略を策定しています。本事業を通して、今後の戦略として資産運用が重要なファクターであることが明らかになり、令和7年4月には岐阜大学基金の中に資産運用の元本を造成する「大学経営自律化促進事業」を設置しました。

岐阜大学基金全般事業

岐阜大学基金全般事業は、大学の裁量で実施する事業で、**応援奨学生制度**、**国際交流促進事業**（短期海外研修奨学金助成事業、短期留学（派遣）奨学金助成、私費外国人留学生学資援助、学術交流協定校等交流促進事業）、**インド交流促進事業**、**教育研究活動支援**、**地域貢献活動支援**、**キャンパス環境整備**、**ぎふのミ・ラ・イ・工構想支援事業**の7つの事業があります。応援奨学制度、国際交流事業では、創設以来、多くの学生が支援を受けています。

岐阜大学基金特定事業

岐阜大学基金特定事業は、寄附者が特定した使途の寄附金をもって実施し、**岐阜大学事業奨励奨学寄付金**、**外国人留学生支援事業**、**学術アーカイブズ支援事業**、**産学連携推進基金**（地域展開ビジョン2030、刃物学、COMIT）、**岐阜大学教育学部創立160周年記念事業**、**岐阜大学医学部創立80周年・医学部附属病院創立150周年記念事業**、**岐阜大学工学部未来振興基金助成事業**、**健康増進活動支援事業**、一定額以上のご寄附をいただいた場合に創設できる**7つの冠特定事業**の他、**税額控除の対象となる修学支援事業**があります。なお、寄附者の意向により、新しい支援事業を設置することも可能です。

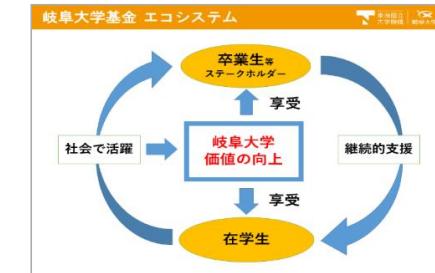
冠特定事業

- ◆バロー・Vドラッグ海外研修奨学金助成事業
- ◆武藤昭三記念奨学基金
- ◆創立70周年記念アピ奨学金助成事業
- ◆ウエスタンデジタル奨学金助成事業
- ◆国際クラブ研究教育助成事業
- ◆CMC元島アカデミーDEIB推進プロジェクト
- ◆CMC元島アカデミー図書館学術情報基盤整備プロジェクト

岐阜大学基金ホームページ
<https://www.gifu-u.ac.jp/fund/>



岐阜大学基金は創立60周年を契機に創設し、学生支援事業を中心に事業を展開



岐阜大学基金の主な活動実績 (創設～令和6年度末)

- ・応援奨学生制度（338名、137,160千円）
- ・短期海外研修奨学金助成事業（283名、26,216千円）
- ・短期留学（派遣）奨学金助成（58名、18,360千円）
- ・私費外国人留学生学資援助（70名、23,760千円）
- ・岐阜大学創立70周年記念事業（H29年度～R1年度）（学術アーカイブズの構築など、119,463千円）
- ・新型コロナ関連学生支援（R2～4年度）（生活支援金給付など、2,405名、74,766千円）

◆ご厚志に対する謝意 → ・大学HP/広報誌への芳名記載 ・銘録への芳名掲示 ・感謝状贈呈 ・広報誌の送付/公式行事のご案内



ご清聴ありがとうございました。
みなさまと共に創る新たな岐阜大学を、今後ともよろしくお願ひいたします。